

Naka tsuru

中 甸 遺 跡

矢部川災害復旧助成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
八女市文化財調査報告書 第114集

2016

八女市教育委員会

Naka tsuru

中 旬 遺 跡

矢部川災害復旧助成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第114集

2 0 1 6

八女市教育委員会

序

平成24年に発生した九州北部豪雨による矢部川の激甚災害は、八女市にも甚大な被害をもたらしました。

今回の報告は、矢部川災害復旧助成事業（星野川筋長野地区）に伴い、平成26年度に八女市長野で実施した中甸遺跡発掘調査に関し、平成26年度調査で得られた成果を公表することを目的としています。

中甸遺跡発掘調査は、長野西遺跡群で発掘調査を実施した初例であり、発掘調査では12世紀後半を中心とした集落跡が発見され、平安時代末から鎌倉時代初頭にかけての時期に長野地区に集落が存在したことが明らかとなりました。出土品には中国から輸入された青磁や西北九州からもたらされたと思われる石鍋なども多数出土しており、当時の長野集落の繁栄ぶりが窺えます。中甸遺跡集落の中心域は現地保存のため調査がなされていませんが、今後発掘調査を実施すれば、長野地区の当該期集落の様子が、より明らかになるものと思われます。

八女市教育委員会では、開発に伴い現地保存が困難となった埋蔵文化財を調査し、記録を未来へと継承していくことを目的として、必要に応じ事業者の協力を得て発掘調査を実施しています。調査後には順次、成果を発掘調査報告書として刊行・公開する予定です。このたび発掘調査報告書を刊行するにあたり、本書が学術資料として活用されるのはもちろんのこと、文化財の保護や理解普及の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査や報告書作成にあたり、ご協力いただきました地元の方々、並びにご指導・ご助言いただきました方々に心より感謝の意を申し上げますとともに、今後も八女市の埋蔵文化財行政にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成28年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

例 言

- ・本書は八女市教育委員会が福岡県八女県土整備事務所の委託を受けて実施した、矢部川災害復旧助成事業（星野川筋長野地区）に伴う発掘調査報告書である。本報告では平成26年度に実施した、八女市長野所在の中甸遺跡発掘調査に関し報告する。
- ・本報告の発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
- ・発掘作業は、発掘作業員と共に作業を進めたが、人員確保に際しては、筑後市教育委員会・みやま市教育委員会のご協力のもと、多くの発掘作業員の方々に参加頂いたことで調査を円滑に進められた。感謝申し上げたい。
- ・本書の遺構実測図で使用する方位は、座標北である。座標は大成ジオテック株式会社に委託し、GPSを用いて基準点を設定したものに基づく。なお、本書で使用する座標は世界測地系による。
- ・本書で使用した遺構実測図は、発掘調査実施時に檀佳克の指揮のもと、橋村照子・月足まつみ・浅田広子・浅田美鈴途が作成した。本書掲載の遺物実測図は、岩戸山歴史資料館において檀・由布が作成した。本書掲載図面の製図は、檀・黒田、平島、由布で行なった。
- ・本書に掲載した写真は、空中写真については有限会社空中写真企画に委託して気球を用いて撮影した。それ以外の写真は檀が撮影した。
- ・本書に使用した色調は、農林水産省農林水産技術会事務局監修『新版 標準土色帖』による。
- ・報告書作成に際しては、発掘現場および出土品の検討において、下記の方々に有益な御教示を得た。記して感謝申し上げる。上村英士（筑後市教育委員会）、多賀晴司（熊本県教育委員会）、美濃口雅朗（熊本市熊本城調査研究センター）（敬称略：五十音順）
- ・本書の編集は、檀が行なった。なお、観察表作成には八女市文化課文化財保護係 永田寧の協力を得た。

目 次

本文目次

1 調査の経過

A 調査に至る経緯	1
B 調査体制	1
2 調査地の位置と環境	2
3 中甸遺跡周辺の遺跡	2
4 調査の成果	7
A 発掘調査の方法と経過および土層について	7
B 中甸遺跡の発掘調査成果	7
1) 古代から中世にかけての遺構と遺物	7
① 竪穴建物跡 (SB)	8
② 掘立柱建物跡 (SB)	8
③ 土坑 (SK)	12
④ 2区東側土器集中箇所	20
⑤ 遺物包含層 (遺構検出面) 出土の遺物およびピット出土遺物	23
2) 近世前後の遺構と遺物	29
① 溝状遺構 (SD)	29
② SD01 出土石塔	30
5 総 括	35

挿図目次

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 第 1 図 中甸遺跡の位置 | 第 24 図 中甸遺跡 SK13・15 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 2 図 中甸遺跡周辺の遺跡 | 第 25 図 中甸遺跡 SK16 実測図 (S=1/40) |
| 第 3 図 中甸遺跡調査区位置図 | 第 26 図 中甸遺跡 SK16 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 4 図 中甸遺跡 1 区西半部 (S= 1/200) | 第 27 図 中甸遺跡 SK17 実測図 (S=1/40) |
| 第 5 図 中甸遺跡 1 区西半部 (S= 1/400) | 第 28 図 中甸遺跡 SK17 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 6 図 中甸遺跡 SB01・02 実測図 (S=1/80) | 第 29 図 中甸遺跡 SK18・20 実測図 (S=1/40) |
| 第 7 図 中甸遺跡 SB01・02 出土遺物 (S=1/3) | 第 30 図 中甸遺跡 SK18 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 8 図 中甸遺跡 SB03 実測図 (S=1/40) | 第 31 図 中甸遺跡 SK20 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 9 図 中甸遺跡 SB04 実測図 (S=1/40) | 第 32 図 中甸遺跡 SK21・22 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 10 図 中甸遺跡 SB05 実測図 (S=1/40) | 第 33 図 中甸遺跡 SK18・20 実測図 (S=1/80) |
| 第 11 図 中甸遺跡 SK01 実測図 (S=1/40) | 第 34 図 中甸遺跡 SK25 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 12 図 中甸遺跡 SK02・04 実測図 (S=1/40) | 第 35 図 中甸遺跡 SK29・30 実測図 (S=1/40) |
| 第 13 図 中甸遺跡 SK03 実測図 (S=1/80) | 第 36 図 中甸遺跡 SK29 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 14 図 中甸遺跡 SK01・02・04～08
出土遺物 (S=1/3) | 第 37 図 中甸遺跡 2 区土器集中部出土遺物 (S=1/3) |
| 第 15 図 中甸遺跡 SK03 出土遺物 (S=1/3) | 第 38 図 中甸遺跡包含層出土遺物 1 (S=1/3) |
| 第 16 図 中甸遺跡 SK06 実測図 (S=1/40) | 第 39 図 中甸遺跡包含層出土遺物 2 (S=1/3) |
| 第 17 図 中甸遺跡 SK07・08 実測図 (S=1/40) | 第 40 図 中甸遺跡包含層・ピット出土遺物 (S=1/3) |
| 第 18 図 中甸遺跡 SK09 実測図 (S=1/40) | 第 41 図 中甸遺跡 SD01 実測図 (S=1/160) |
| 第 19 図 中甸遺跡 SK10・12 実測図 (S=1/40) | 第 42 図 中甸遺跡 SD01 出土遺物 (S=1/3) |
| 第 20 図 中甸遺跡 SK10・12 出土遺物 (S=1/3) | 第 43 図 中甸遺跡 SD01 出土石造物 1 (S=1/ 8) |
| 第 21 図 中甸遺跡 SK09 出土遺物 (S=1/3) | 第 44 図 中甸遺跡 SD01 出土石造物 2 (S=1/ 8) |
| 第 22 図 中甸遺跡 SK13 実測図 (S=1/40) | 第 45 図 中甸遺跡 SD01 出土石造物 3 (S=1/ 8) |
| 第 23 図 中甸遺跡 SK14 実測図 (S=1/40) | 第 46 図 中甸遺跡 SD01 出土石造物 4 (S=1/ 8) |

表目次

- 第 1 表 中甸遺跡出土遺物観察表

図版目次

- | | |
|-------------|-------------|
| 図版 1 中甸遺跡 1 | 図版 4 中甸遺跡 4 |
| 図版 2 中甸遺跡 2 | 図版 5 中甸遺跡 5 |
| 図版 3 中甸遺跡 3 | 図版 6 中甸遺跡 6 |

1 調査の経過

A 調査に至る経緯

平成 24 年 7 月 12 日から降り続いた九州北部豪雨は、八女市にも甚大な被害を及ぼした。今回報告する八女市長野地区においても星野川が氾濫し、流域が洪水のより水没するのみならず、橋梁が流される等の被害があり、家屋や農地等への被害も甚大であった。

災害後、矢部川災害復旧助成事業（事業主体：福岡県）が 5 か年で計画され、星野川流域で堤防の補修・強化および河道拡幅等の掘削を伴う工事が発生し、今回報告する長野地区（長野西遺跡群）をはじめ、複数の埋蔵文化財包蔵地が工事区域に含まれた。その為、福岡県八女県土整備事務所より平成 25 年 7 月 22 日に文化財保護法第 94 条に伴う通知があった（25 女整 2243-1 号）。八女市教育委員会はそれを受けて、平成 25 年度に長野地区の事業地内で埋蔵文化財有無の確認のための試掘・確認調査を行なった。その結果、長野西遺跡群の一部で土師器等の土器や土坑と思われる遺構も確認され、埋蔵文化財が存在することが明らかとなった。当該地は今後の洪水等に備えるため、河川拡幅工事により大きく削平せざるを得ない箇所であったため、福岡県八女県土整備事務所に埋蔵文化財が確認された箇所については記録保存のための発掘調査が必要である旨伝え、協議を重ねた。協議の後、平成 26 年度に発掘調査を実施することになった。調査箇所は小字名から中甸遺跡と命名された。

現地調査は平成 26 年度に実施した。調査担当も平成 26 年 4 月に八女市に入庁した直後であったため、その間の経緯等の引継ぎ等で当初は平成 25 年度の経緯と状況把握に努めながら、多くの方々のご理解とご支援を受けつつ事業を着手し始めた。発掘作業は、平成 26 年 5 月 7 日に調査予定地東側の 1 区東端から現地調査に着手した。1 区東側は覆土も度重なる洪水を物語るように厚く堆積しており、表土除去作業は難航を極めた。また、発掘調査開始時は発掘作業員の人員確保が難しく、人員は不足気味で当初はなかなか思うように作業が進捗しなかった。平成 26 年 7 月中旬より 1 区西端および 2 区の調査に移行し、古代末から中世にかけての多くの遺構・遺物が確認されはじめた。平成 26 年度は梅雨が長い年であった。8 月は例年以上の雨天続きであったため、のべ 10 日程しか作業を行うこともできず、また足場が悪い状況での掘削作業となり、なかなか思うように掘削作業は進まなかった。平成 26 年 9 月からは作業員も増員できたことから発掘作業も順調に進み、2 区では多くの遺構・遺物が発見された。上記の事情でやや調査期間は伸びたが、現地調査は平成 27 年 12 月初旬に完了した。出土品は整理コンテナで約 10 箱分の土器等が発見され、平成 26 年 12 月 5 日に埋蔵物発見届および保管証を提出した（26 八文財 417 号）。平成 26・27 年度に整理作業をすすめ、平成 27 年度に報告書作成作業を実施した。

B 調査体制

【平成 26 年度】（現地調査・整理作業）

調査主体 八女市教育委員会

教 育 長	西島 民生
教 育 部 長	永松 二美
文 化 課 長	井上 秀樹
同 課長補佐	月足 稔
同 参事補佐	北島 一雄
同 文化財係長	大塚 恵治
同 係員	永田 寧
同 係員	檀 佳克（調査担当）
同 係員	渡部 真弓

【平成 27 年度】（整理作業・報告書作成・刊行時）

調査主体 八女市教育委員会

教 育 長	西島 民生
教 育 部 長	室園 哲也
文 化 課 長	井上 秀樹
同 課長補佐	月足 稔
同 参事補佐	北島 一雄
同 文化財保護係長	中川 寿賀子
同 係員	永田 寧
同 係員	檀 佳克（本報告担当）
同 係員	渡部 真弓

発掘作業員（平成 26 年度）

浅田広子、浅田美鈴途、石橋晴敏、内田正信、大田黒邦男、坂口弘子、坂口八千代、篠原鐵郎、下河佳子、谷川富重、月足まつみ、橋村照子、服部絹子、藤本幸恵、堀田武利、山口ウタ子

整理事業員（平成 26・27 年度）

黒田克子、秀徳美由紀、野口由妃、野間口靖子、原口節美、平島昌美、由布淳子、横井理絵

（以上、敬称略・五十音順）

2 調査地の位置と環境（第 1・2 図）

八女市は福岡県南部に位置し、平成 18 年度に上陽町、平成 22 年度に黒木町・立花町・星野村・矢部村と合併し、福岡県下 2 位の面積を有し、南を熊本県、東を大分県と接する自治体となった。矢部川水系（星野川・矢部川ほか）に位置し、基幹産業は農業である。東の山間部では林業や茶の栽培、西側の平野部では稲作や果物・電照菊等が盛んに行われている。

本書で報告する中甸遺跡は、長野西遺跡群の中に所在する。長野地区は旧八女市の東端部、川崎小学校区に位置している。調査地は八女市内を東西に流れる矢部川・星野川によって形成された平野部の東端部分である。よって、調査地より東側は山間部となり、西側には旧八女市域の平野が広がるという、平野と山間部の結節点である。調査着手時の状況は、農地で水田・畑地が広がっている状況であったが、先の豪雨災害による洪水被害から休耕地となっている状況であった。

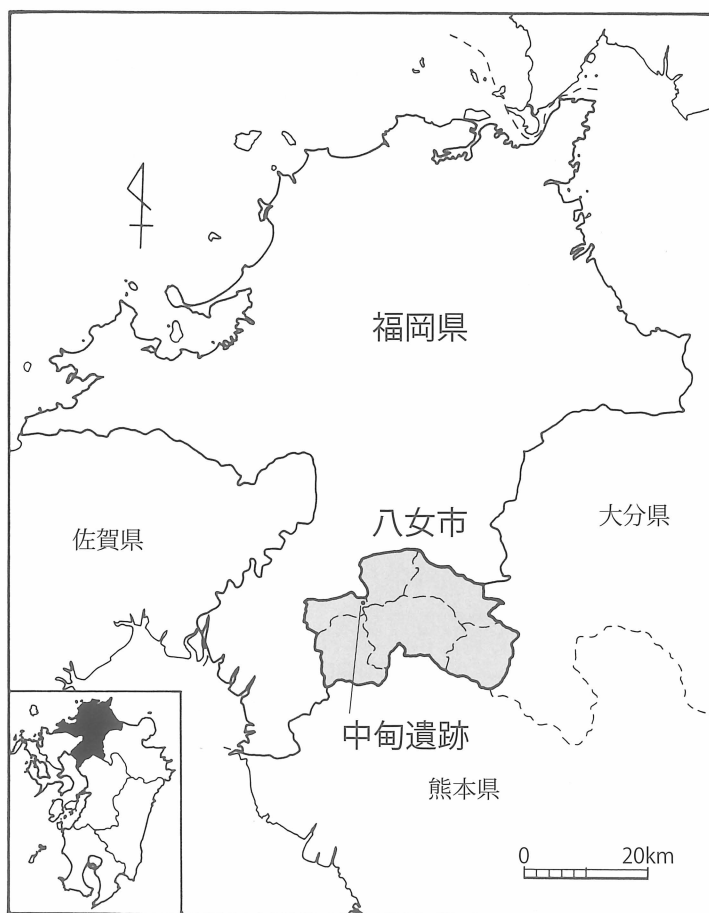
3 中甸遺跡周辺の遺跡

ここで、以下に調査地周辺の遺跡について、中甸遺跡で確認された古代末～中世を中心として、周辺遺跡の概略を述べる。

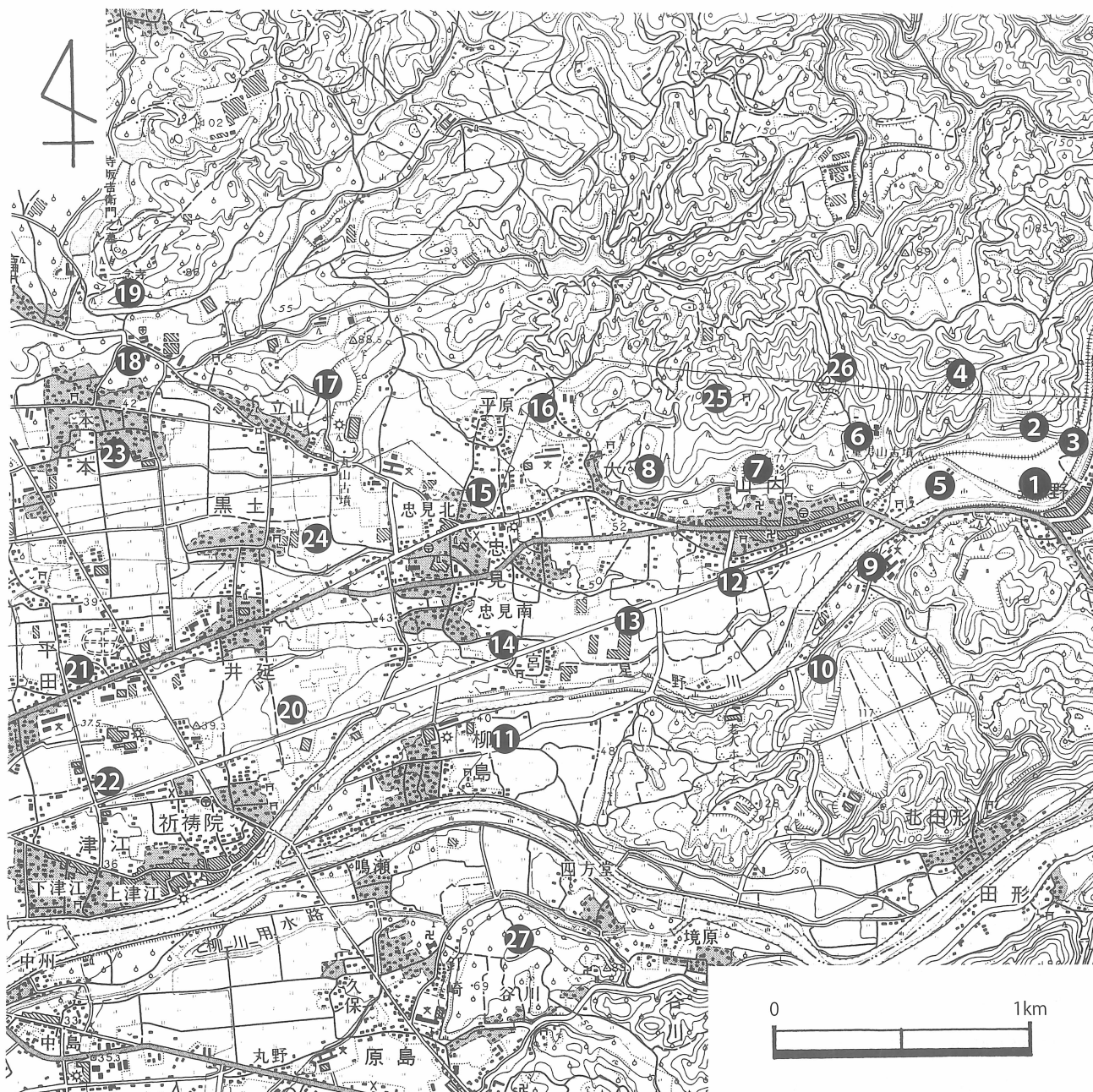
当該地は八女古墳群が所在する八女丘陵の東端部分にあたり、当該地北西には童男山古墳群など、古墳時代後期に属する古墳群が形成されており、当該地西側約 1.5km の榎町遺跡では、古墳時代後期の竪穴式住居跡をはじめとした集落跡が発見されている。長野地区にも古墳時代後期の古墳群である長野古墳群が存在することから、現段階では未確認であるが、長野西遺跡群にも当該期の集落跡が存在する可能性は充分あるものと思われる。

古代・中世は、長野西遺跡群が所在する長野地区では、当時の状況は明確ではなかったが、今回の調査で中甸遺跡に 12 世紀後半を中心とした集落跡が存在する状況が明らかとなった。

また、調査地の東隣接地には長野石塔群があり、室町時代～江戸時代の五輪塔をはじめとした石塔が存在



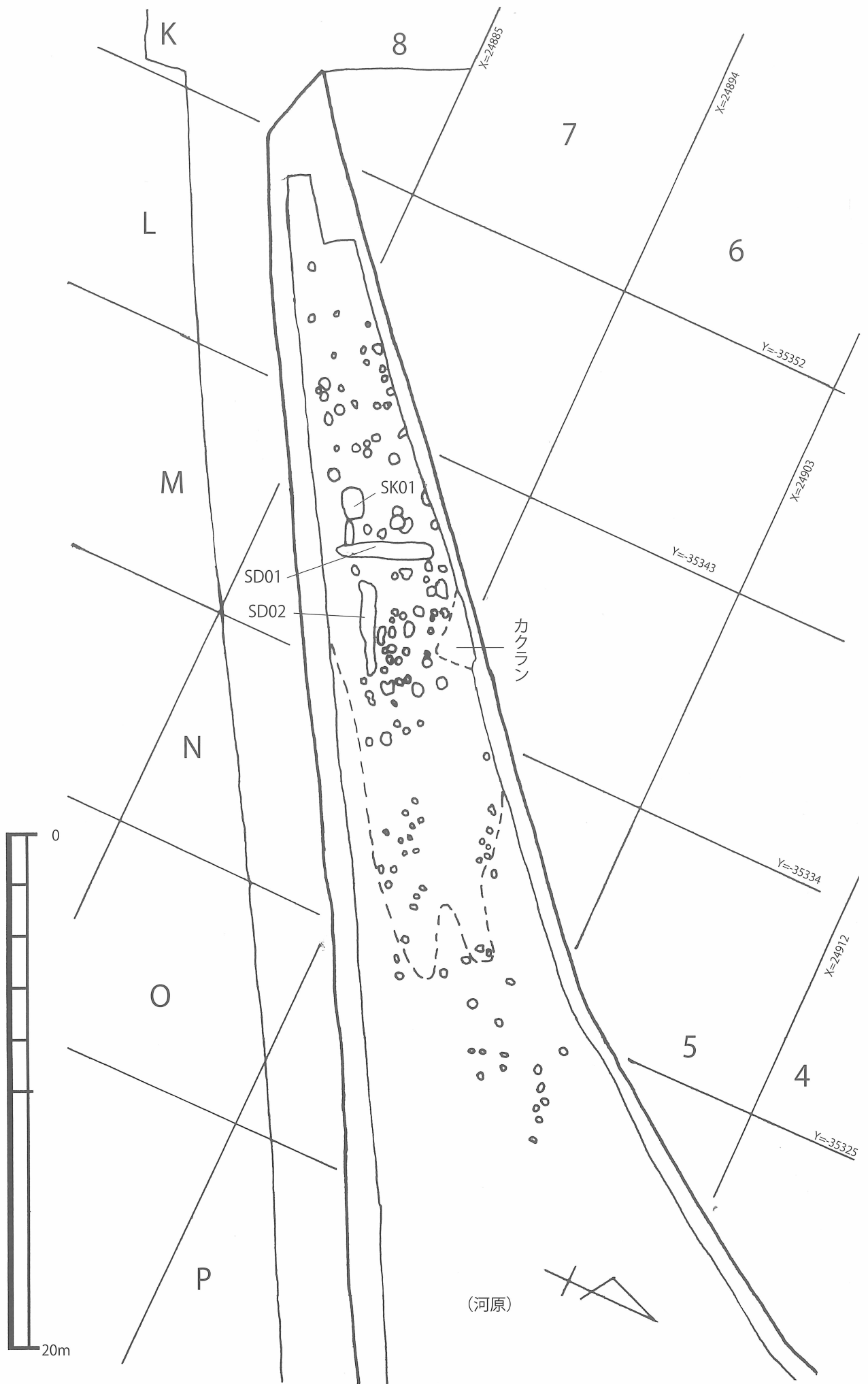
第 1 図 中甸遺跡の位置



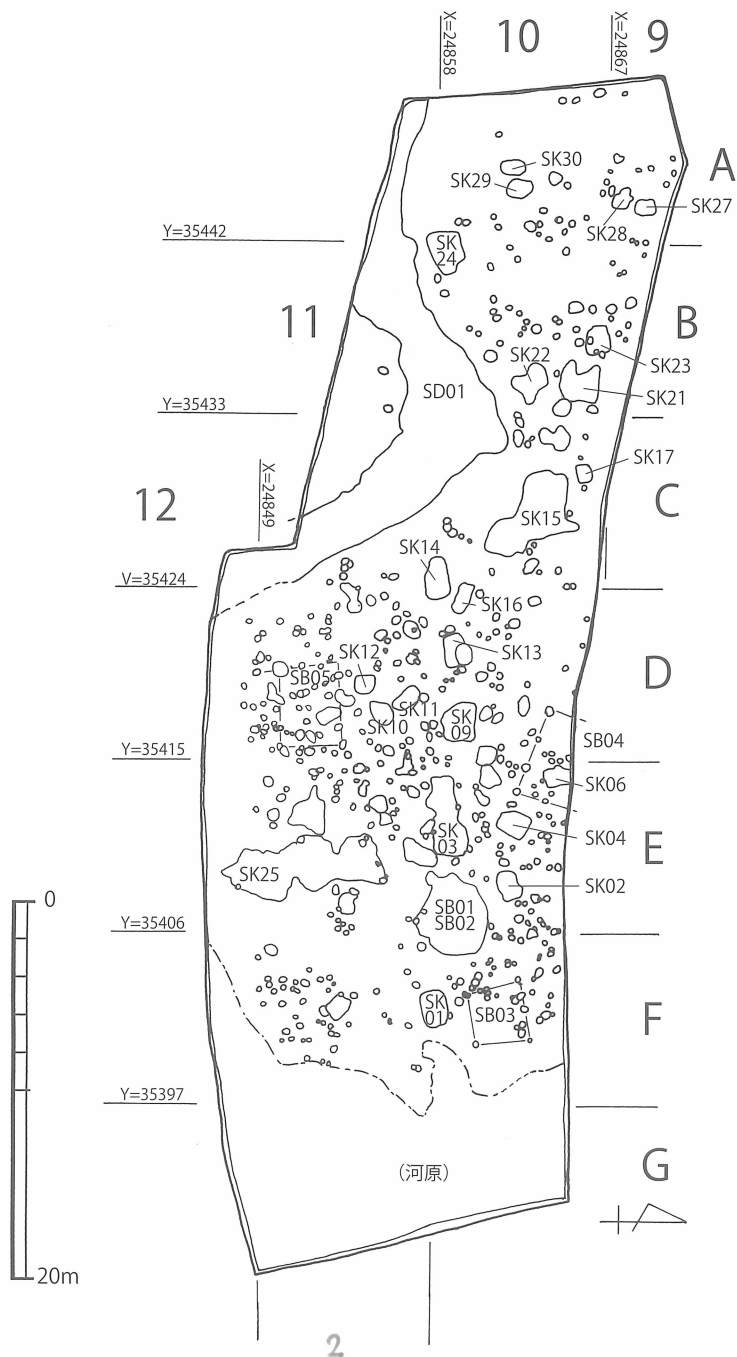
- | | | | | |
|-----------------|------------|----------------|-------------|------------|
| 1. 中甸遺跡(長野西遺跡群) | 2. 長野古墳群 | 3. 長野五輪塔群(元位置) | 4. 長野塚跡群 | 5. 渡瀬の古戦場 |
| 6. 童男山古墳群 | 7. 東館遺跡 | 8. 日迫山古墳群 | 9. 山内川原遺跡群 | 10. 柳島古墳群 |
| 11. 柳島遺跡群 | 12. 山内遺跡群 | 13. 大籠遺跡群 | 14. 忠見南遺跡群 | 15. 忠見北遺跡群 |
| 16. 平原古墳群 | 17. 立山山古墳群 | 18. 本古墳群 | 19. 鹿子島山古墳群 | 20. 井延遺跡群 |
| 21. 平田遺跡群 | 22. 津江遺跡群 | 23. 本遺跡群 | 24. 黒木新替遺跡 | 25. 鷹尾城跡 |
| 26. 犬尾城跡 | 27. 辻遺跡 | | | |

第2図 中甸遺跡周辺の遺跡

していたとのことであるが、豪雨災害のため現在石塔は今回調査地の北隣接地に集めて保管されている。後述する、今回の調査で出土した石塔片も、これらの石塔群と関連がある可能性が考えられる。また、調査地西側約 100 m には渡瀬の古戦場跡があり、戦国時代に黒木氏と河崎氏による戦闘が行われたと伝えられている。また、当該地北西には鷹尾城や犬尾城が所在し、中世においても平野部東端部の要地であった状況がうかがえる。



第4図 中甸遺跡1区西半部 (S= 1/200)



第5図 中甸遺跡Ⅰ区西半部 (S= 1/400)

4 調査の成果

A 発掘調査の方法と経過および土層について

今回報告を行う中甸遺跡は、長野西遺跡群に所在し、長野西遺跡群では初の発掘調査事例である。調査地の南側には隣接して星野川が東西に流れている。

発掘調査は災害復旧事業地のうち、平成 25 年度に実施した試掘・確認調査で遺構・遺物が確認された範囲を対象に実施した。発掘調査地は約 2,900 m²であり、調査区は東西が約 160 m、南北幅が約 15 m と細長い形状であった。このため、調査区のほぼ中央を走る道路より東側を 1 区、西側を 2 区と便宜的に分けた（第 3 図参照）。また、調査では国土座標世界測地系に沿うように東西・南北ともに 9 m 四方を 1 グリッドとして設定した。グリッドは西から東に向かって A、B、C、…とアルファベットを、北から南側へ向かって 1、2、3、…と番号を付し、アルファベットと数字の組み合わせで各グリッドを命名した。さらに、各グリッドに 3 m 四方の小区画を設定して 9 分割し①～⑨の記号を付し、包含層出土など遺構が特定できない出土遺物の取り上げは、3 m 四方の小単位で記録を取りながら行った。

調査の結果、今回の発掘調査地内では、長野西遺跡群に存在する集落跡の南端部について調査を実施した形となったことが判明した。特に 1 区の西端部および 2 区の西半部分がもともと微高地だったようであり、多くの遺構・遺物が確認された。1 区および 2 区の東半部分では、表土層および盛土層や洪水堆積層の下位で礫混じりの川砂層が検出され、もともと星野川の河原であったことが判明し、遺構等は確認できなかった。しかし、2 区の一部では青磁や土師器等の土器が集中して出土する箇所が存在したため、遺物が出土する範囲は図面・写真等の記録を取った。

今回の発掘調査で発見されたものは、古代末～中世（おそらく 12 世紀後半およびその前後）を中心とした集落跡であり、土坑・溝状遺構とともに、柱穴と思われるピットが総数 400 基程度発見された。出土遺物から想定される集落存続期間は極めて短期間ではあるが、今回の発掘調査で特定できた数以上の建物跡が存在していた可能性が高い。なお、1 区では地表下約 1 m までの洪水砂層（3 回以上に分かれて堆積したもので、過去に 3 度以上の洪水があったことが判明）を除去したところで遺構面が確認された。2 区西側では、表土層を除去した地表下約 30cm で遺構面ないし遺物包含層相当の黒褐色土層が検出され、包含層は南側では約 20cm の厚さで堆積していた状況であった。

その他、溝状遺構は洪水の土石流で埋没したと思われる溝状遺構が 1 条検出され、溝状遺構の中から土石流により運ばれたと思われる土砂に混じって五輪塔をはじめとした石塔片が発見された。

B 中甸遺跡の発掘調査成果

1) 古代から中世にかけての遺構と遺物

古代から中世にかけての遺構は、土坑と柱穴を中心に多数発見された。特に柱穴は、掘削した際の土層断面の検討結果から、形状や埋土等から木の根等の非人為に起因すると思われたものを外しても、400 を超える数が発見された。なお、第 5 図では、2 区のうち明らかに根跡等の人為的ではない小穴を外して、検出された遺構を示した。

特に 2 区の D・E グリッド付近では密集状態でピットが発見され、土層観察では柱抜き取り痕の可能性のあるピットも多数あり、北東－南西方向にピットが並ぶ状況は確認できることから、今回示している数以上の掘立柱建物跡が存在している可能性は高い。D・E グリッド付近の地形は発掘調査の結果、星野川に向かって南側に張り出す微高地であったことが判明した。D・E グリッド付近は、この立地の良さから継続して掘立柱建物跡が建てられた結果、多くのピットが存在するものと思われる。調査時に現地でも検

討を重ねたものの、明確に特定できた掘立柱建物跡は少ないが、以下に建物跡と思われるものについて示す。

1 区の調査成果（第4図）

1 区では表土除去の結果、調査地の大半の部分がもともと河原であったことが判明し、結果として遺構は確認できなかった。ただし、1 区調査区の西半部分では旧地形が微高地であったと思われる箇所が確認され、褐色土層が出土する箇所があった。その上面でピット・土坑および細い溝状遺構などの遺構が確認された。ただし、残存状況は悪く、今回の要調査箇所内では狭い範囲の調査であったため、掘立柱建物が建つ可能性は高いが、明確ではなかった。可能性として、溝状遺構2条で囲まれる範囲にピット列が見出されるようでもある。今後の北側での調査の機会があれば、併せて検討すべき課題である。

遺物も表土中からはわずかに土師器等の出土が確認されたが、ピットや溝状遺構・土坑等からは、不思議なほどに遺物の出土は確認されなかった。

1 区の東端部分は微高地になっており、後述する西隣の2 区東側は河原となっていて、2 区西側は微高地となって遺構が存在している。このことから、1 区と2 区の間には入江状に低地が入り込み、1 区の遺構検出箇所はもともと南の星野川に張り出す微高地であったものと思われる。中甸遺跡集落跡の南端部に該当するものと思われる。

2 区の調査成果

2 区では、表土除去の結果、東半部分では旧地形が河原である状況は確認され、西半部分では星野川に張り出す微高地上に多くの遺構が検出され、多くの遺物が出土した。

① 竪穴建物跡（SB）

SB01・02（第6・7図）

2 区西側で検出された竪穴であり、遺構の中心底面付近で炭粒等集中箇所など、火を使用した痕跡が確認されたことから、竪穴建物跡と判断した遺構である。遺構の平面形状から竪穴建物2棟としたが、火処や柱穴などやや不明な点も残る。ともにやや隅丸四角気味の円形の平面形になりそうである。

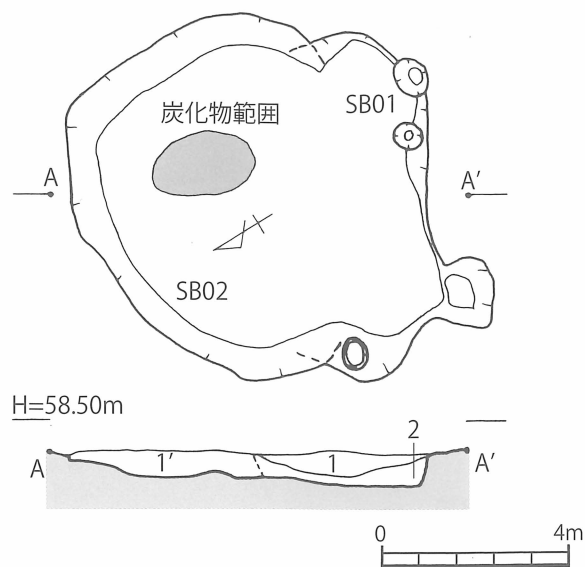
なお、以下は推測であるが、SB01・02のすぐ東側では河原が広がっている状況であり、調査結果からの旧地形を考慮すると、SB01・02が存在している場所は、中甸遺跡集落域の南東端部にあたる。東側の河原では後述する土器集中箇所が発見されていることを考慮すると、住居跡のほか、見張り小屋等の可能性も考えられるものと思われるが、柱穴も不明で土坑である可能性も残り、詳細は不明である。

SB01・02より出土した遺物を第7図に示す。遺物には土師器の小皿（1・2・14）や坏（3～8）、青磁（9）、播鉢ないしこね鉢（11・13・16）、鍋（12）の他、縄文式土器（10）等がある。

② 掘立柱建物跡（SB）

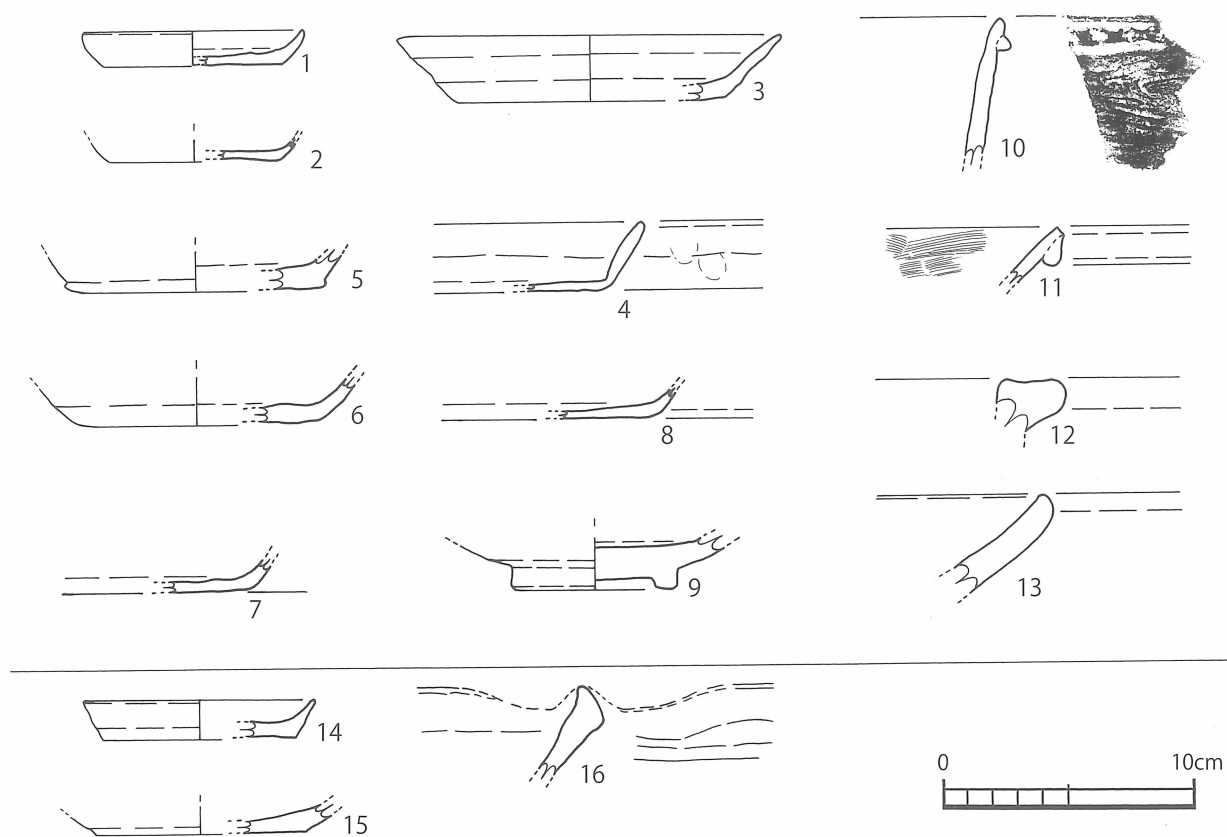
掘立柱建物跡は発掘調査時に現地で確認した3棟に関し報告する。なお前述の通りであるが、D・Eグリッド付近では柱穴の可能性が高いと思われるピットが多数検出されているものの、建物跡の復元まで至らなかったが、本報告で示す以上の建物跡が存在することは間違いないものと思われる。

また、出土遺物も掘立柱建物跡に伴う状況で確認できる状況はなかったため、出土遺物と建物跡との関連を特定することはできなかった。建物跡に伴う遺物は包含層出土として取り上げを行った遺物に含まれていることを付記しておく。

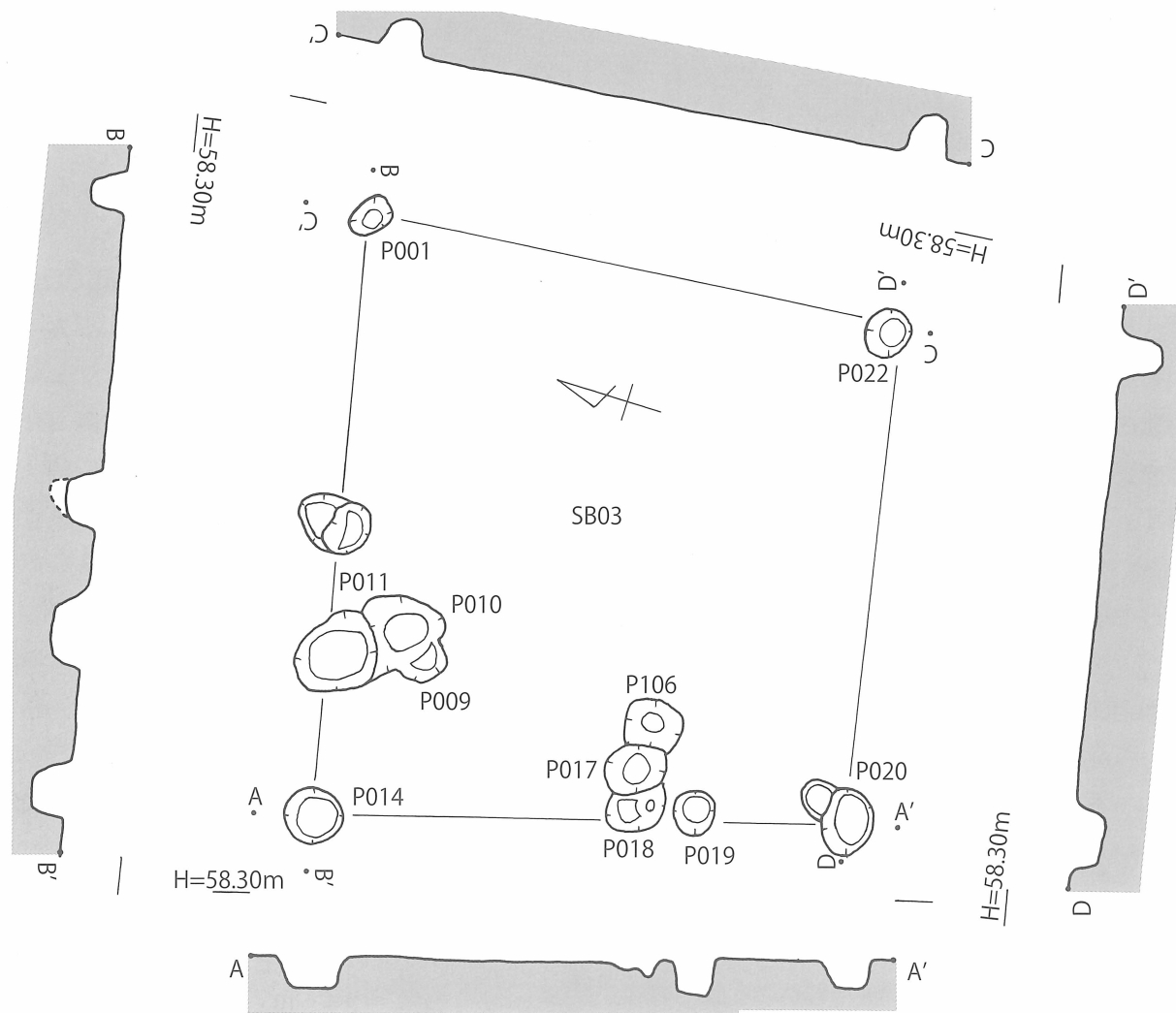


1…黒褐色土(Hue10YR3/2)焼土・炭粒を含む。やわらかい。
 1'…黒褐色土(Hue10YR2/2)1層と似ているが、やや砂混じり。
 2…1層と基盤層の褐色土(Hue10YR3/4)との混土層。

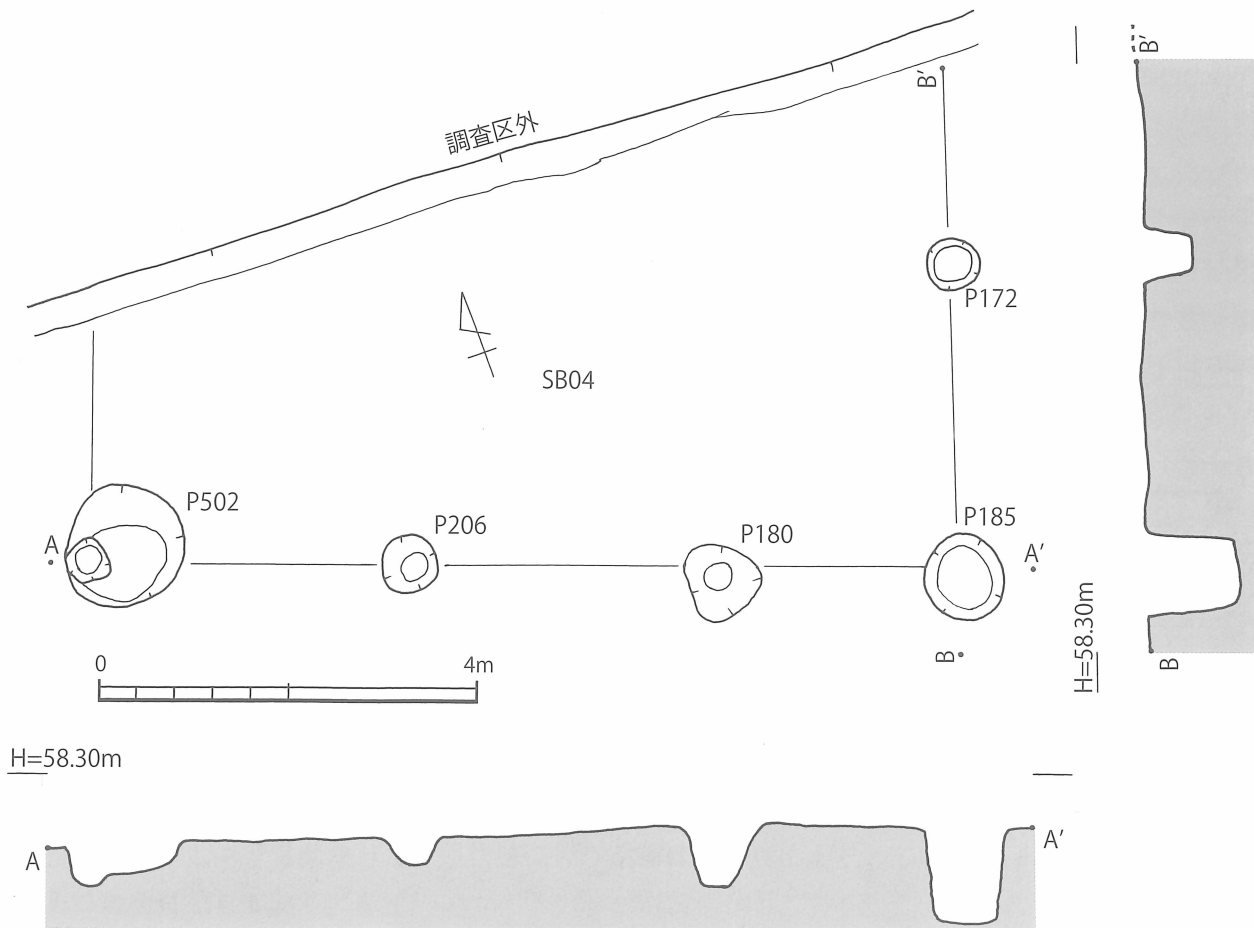
第6図 中甸遺跡 SB01・02 実測図 (S=1/80)



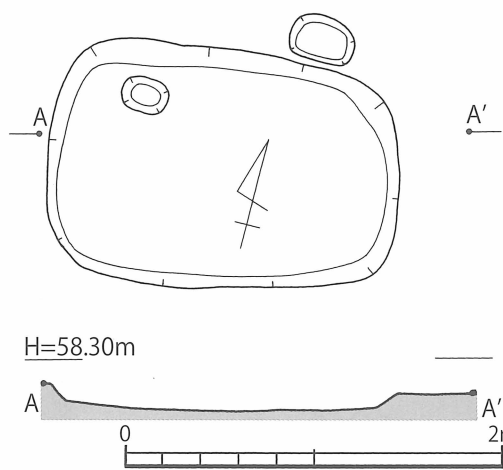
第7図 中甸遺跡 SB01・02 出土遺物 (S=1/3)



第8図 中甸遺跡 SB03 実測図 (S=1/40)



第9図 中甸遺跡 SB04 実測図 (S=1/40)



第11図 中甸遺跡SK01実測図 (S=1/40)

SK01 (第11図)

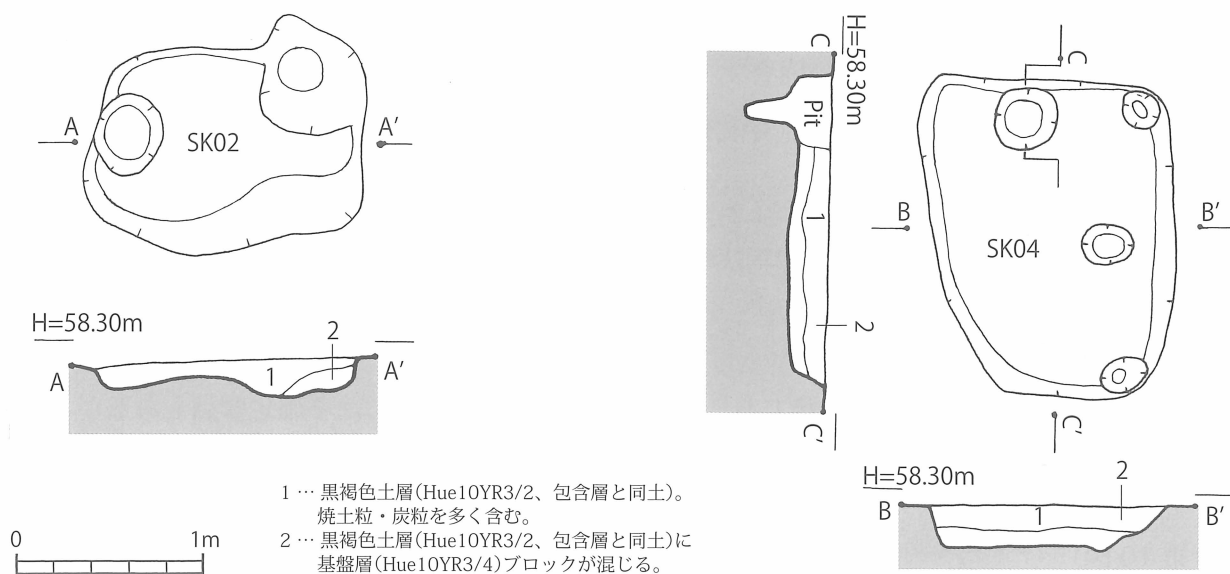
2区の東端付近で検出した。長辺約1.8m、短辺約1.3mの隅丸方形の平面形である。深さは検出面から約15cm程度である。出土遺物は2点あり、第14図1・2に示す。1・2は坏の底部片である。

SK02 (第12・14図)

2区E10グリッドで検出した。平面形は長辺約1.4m×短辺約1.1mの隅丸方形の土坑である。出土遺物を第14図3～11に示す。3～5は土師器の小皿で口径は8～9cmで底部は糸切り技法が使用される。6・7は坏で底部は糸切り技法による切り離しである。8～11は土錘である。

SK03 (第13・15図)

2区中央やや東寄りのE10グリッドで検出された土坑である。調査の結果、土坑2基が重なっているものであることが判明したが、ここでは併せてSK03として報告する。当初、検出時には土坑内で焼土塊が確認されたため(第13図のトーン箇所)、土器焼成等の火を焚く状況に伴うものと思われたが、掘削の結果焼土は土坑下面からは浮いている形で出土していることから、この場で火を焚いたものではなく埋没中に堆積した状況であることが判明した。

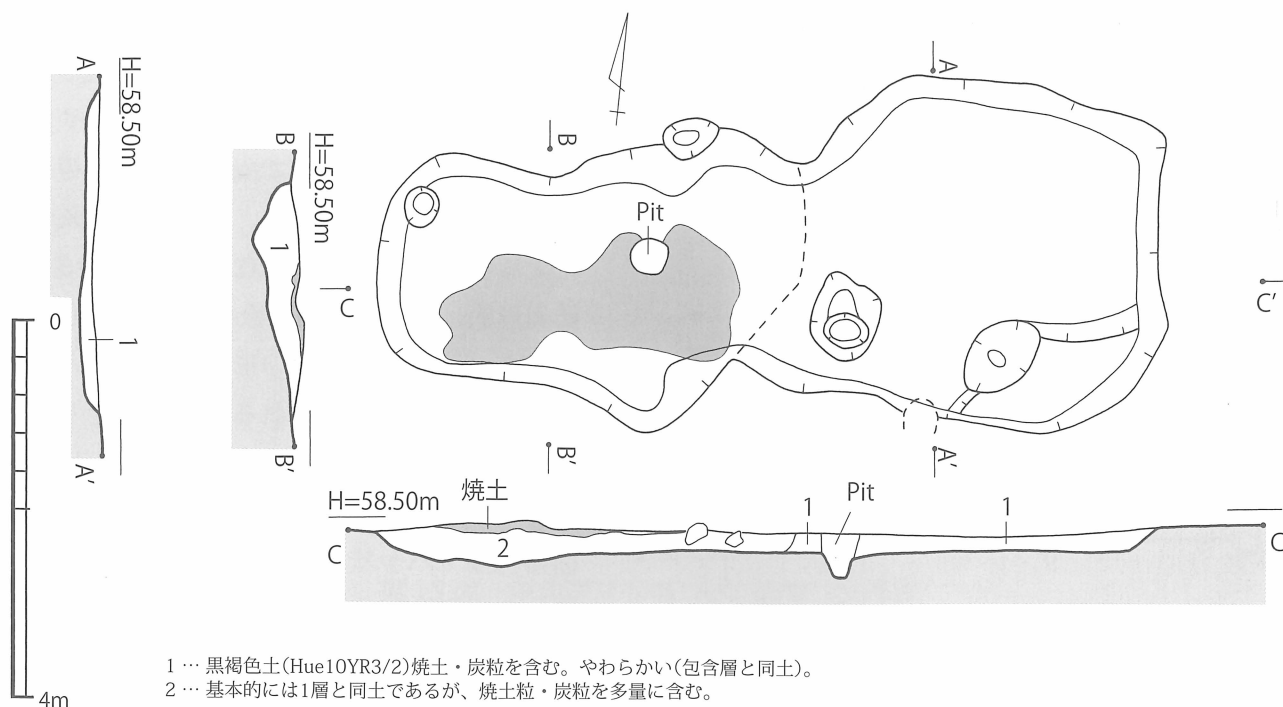


第12図 中甸遺跡SK02・04実測図 (S=1/40)

困難を極めたが、掘り込みの深いピットに着目して検討した結果、1棟の建物跡であると判断されたものである。2間×3間の正方形に近い平面形が想定される建物跡である。

③ 土坑 (SK)

土坑は調査の結果、浅くて地形のくぼみの可能性があるものや、風倒木痕と判明したものも存在するが、2区調査区内で約30基検出された。平面形は方形と円形があり、特にSK09のように、方形の中には坏や小皿等の土器が多く出土したものもある。主なものについて、以下に個別に報告する。



第 13 図 中甸遺跡 SK03 実測図 (S=1/80)

出土遺物を第 15 図に示す。1～3 は土師器の小皿で口径は約 8 cm である。4～6 は坏である。7 は鍋の口縁部片で口縁部上面は刻目状の調整を行う意図と思われる。8・9 は土錘である。10 は石鍋の破片であるが、破損後に明確に転用した痕跡は確認されない。突帯の位置から 12 世紀台に属するものと思われる。

SK04 (第 10・14 図)

2 区北側の E10 グリッドで検出した。平面形は長辺約 1.7 m × 短辺約 1.3 m のやや不整形な隅丸方形である。深さは検出面から 20cm 程度である。出土遺物のうち図化できたものは 1 点のみであり(第 14 図 12)、土師器の坏であり、底部は糸切りの後丁寧なナデ調整が施されている。

SK06 (第 14・16 図)

調査区北側の E10 グリッドで検出された土坑であり、北半部は調査区外にのびる。幅約 1 m の土坑である。出土遺物のうち図化できたものは 1 点であり(第 14 図 16)、土師器の小皿で口径は約 9 cm、底部は糸切り調整である。

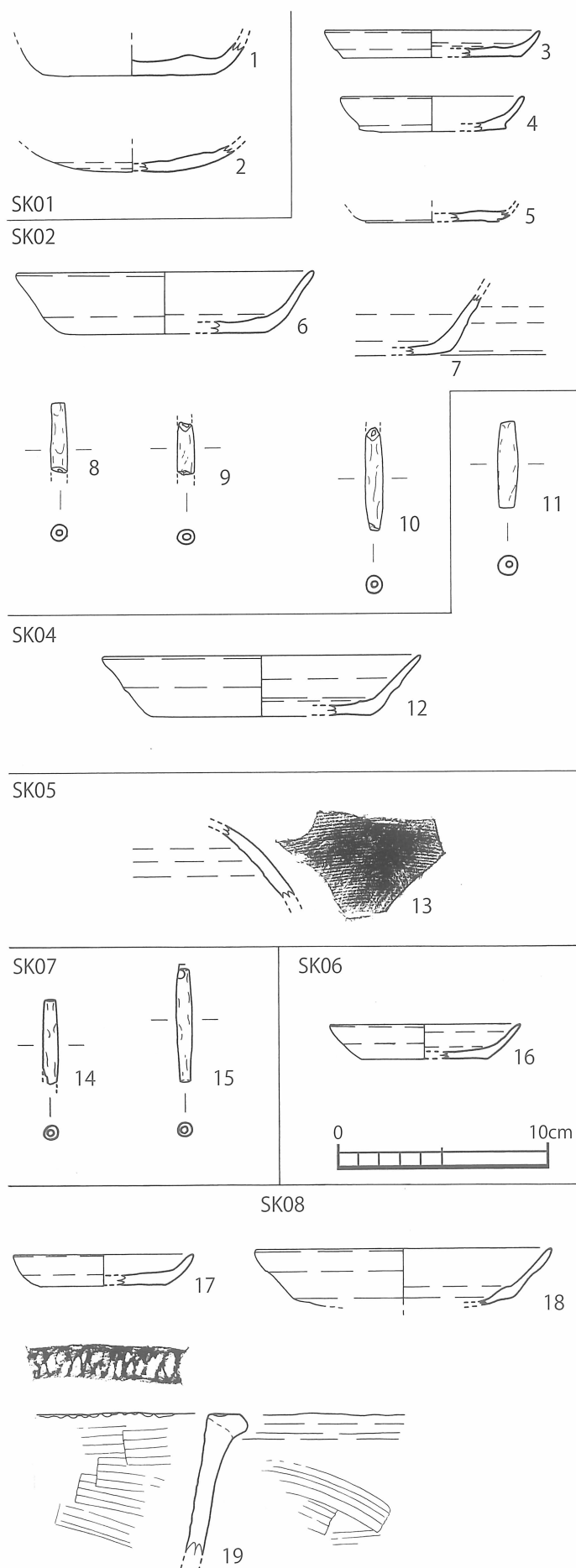
SK07・08 (第 14・17 図)

SK07・08 ともに径約 1 m の円形の土坑である。

SK07 では、図化できた遺物は土錘 2 点のみであった(第 17 図 14・15)。SK08 からは、土師器の小皿(第 17 図 17)、坏(同 18)、鍋の口縁部片(同 19)が出土している。

SK09 (第 18・21 図)

2 区中央付近の E10 グリッドで発見された土坑である。一辺 2 m の正方形の平面形をしており、検出面からは 10cm ほどの深さで残存していた。土坑内からは土器が大量に出土している。



第 14 図 中甸遺跡 SK01・02・04～08
出土遺物 (S=1/3)

出土遺物のうち図化可能であったものを第 21 図に示す。1～19 は土師器の小皿である。口縁部に向かってまっすぐ伸びるものや内湾するもの、屈曲をもって内湾するもの等、断面形態は数種類存在する。底部は全て糸切りによる切り離しである。20～38 は坏である。断面形態は小皿と同様に数種類ある。20 は口縁部の一部が注口と逆の形状に引っ込んでいる箇所が 1 箇所確認される。確認できるものでは底部の切り離しには糸切り技法が用いられているものが多い。39 は青磁碗であり、内面にヘラ・ハケ状工具による文様が施文されている。龍泉窯系か。

SK10・12 (第 19・20 図)

ともに径約 80cm～1 m 程度の土坑であり、検出面からの深さは 5～10 cm と非常に浅い土坑であった。なお、調査時の不手際もあり、やや掘り過ぎてしまったことが後に確認された。

出土遺物を第 20 図に示す (SK10 は 1・2、SK12 は 3・4)。1 は底部片、2 は青磁の口縁部片であり、内面に 1 条の水平方向の線が確認できる。

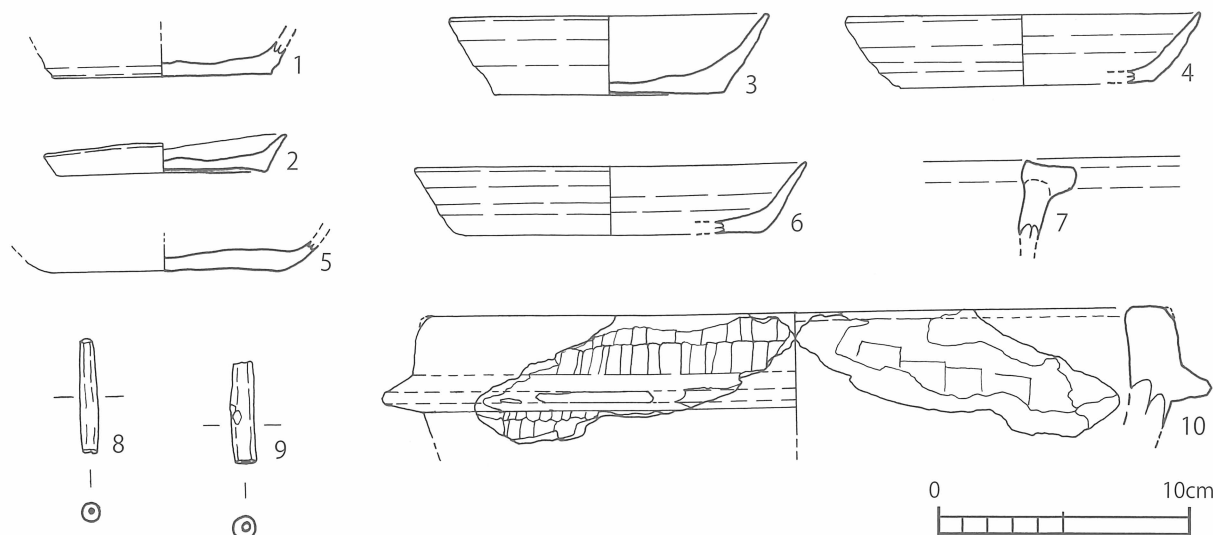
3・4 は土師器坏の底部片であり、ともに底部は糸切り技法が使用されている。

SK13 (第 22・24 図)

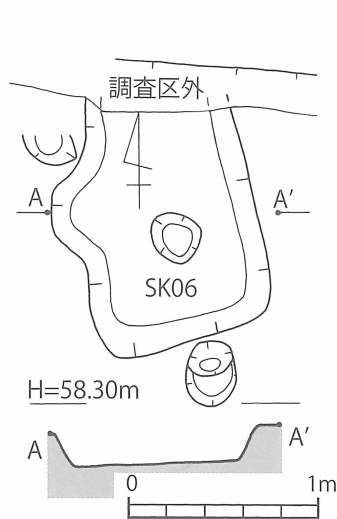
調査区中央の D10 グリッドで検出された土坑であり、東西方向に長軸をもち、長辺約 90cm、短辺約 60cm の長方形の平面形をしている。出土遺物を第 24 図 1～6 に示す。1～4 は土師器の坏であり、底部が確認できるものは糸切り技法の採用が確認できる。5 は土錘である。6 は青磁の碗である。

SK14 (第 23 図)

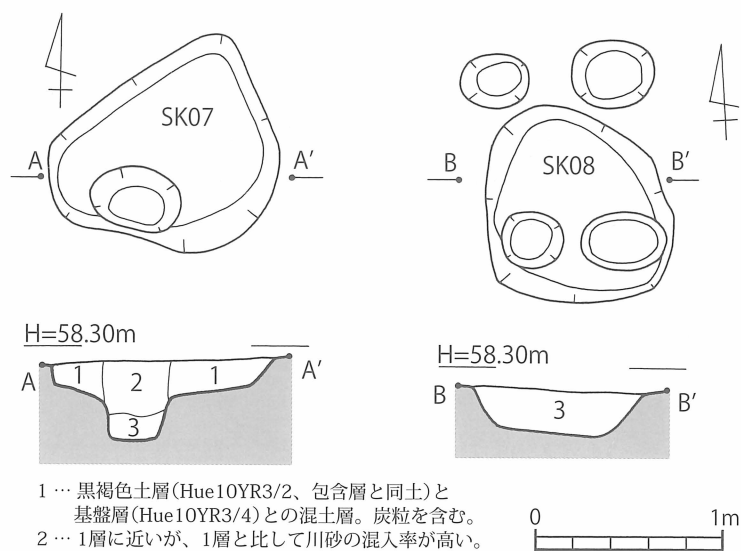
C10 グリッドで検出された、長辺約 2.3cm、短辺約 1.3cm、深さ約 15cm の楕円形の土坑である。出土遺物のうち図化できるものは確



第 15 図 中甸遺跡 SK03 出土遺物 (S=1/3)



第 16 図 中甸遺跡 SK06
実測図 (S=1/40)



- 1 … 黒褐色土層(Hue10YR3/2、包含層と土)と
基盤層(Hue10YR3/4)との混土層。炭粒を含む。
2 … 1層に近いが、1層と比して川砂の混入率が高い。
3 … 黒褐色土層(Hue10YR3/2、包含層と土)。
焼土や炭粒を含む。

第 17 図 中甸遺跡 SK07・08 実測図 (S=1/40)

認められなかった。

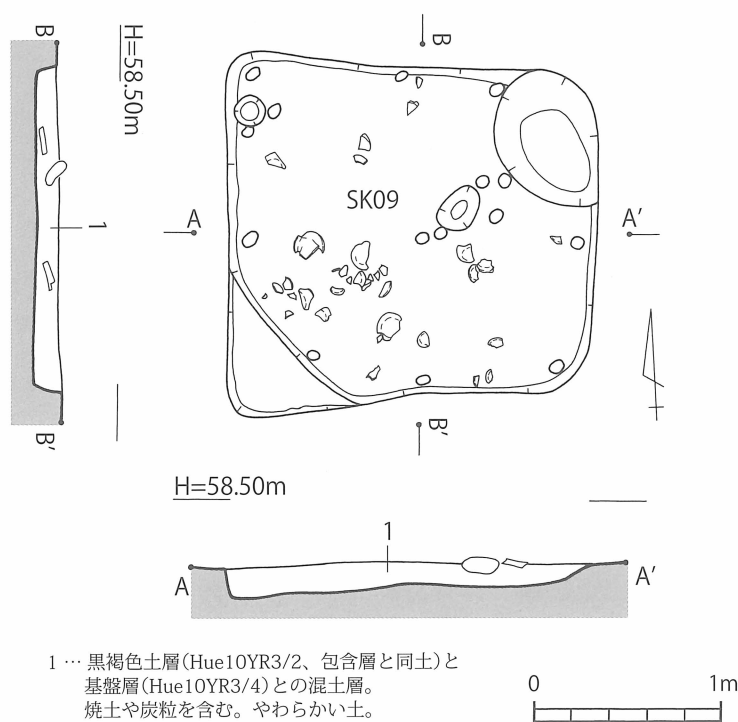
SK15 (第 5・24 図)

SK15 は、当初は土坑として調査をしていたが、掘削の結果、風倒木痕であることが判明したものである。南側に黒褐色土層が検出されていて土坑と推測し掘り下げを行ったが、北側の壁面が確認されず、結果的には北側に大きく膨らむ形となった。土層観察から、木が南東方向に倒れた結果の可能性が高いと判断された。

出土遺物を第 24 図 7～16 に示す。7 は縄文土器の小片であり、縄文時代後期に属するものと思われる。8 は甕形土器の口縁部であり古代に属するものと思われる。9 は土師器の小皿、10～12 は坏である。13 は高台付坏の底部、14 は須恵器の瓶もしくは甕・壺の底部片である。15・16 は青磁である。

SK16 (第 25・26 図)

D10 グリッドで検出された土坑であり、北西－南東方向に長軸をもつ、長辺約 1.5 m、短辺約 0.7 m の



第 18 図 中甸遺跡 SK09 実測図 (S=1/40)

長方形の平面形をした土坑である。出土遺物を第 26 図に示す。1～3 は土師器の小皿であり、口径は約 8cm であり、底部は糸切り技法が採用される。4 は土師器の坏であり、底部は同じく糸切り技法が採用される。5 は土錘である。6・7 は土師器の甕であり、小片のためはっきりとしないが、古墳時代後半期～古代に属する遺物と思われる。

SK17 (第 27・28 図)

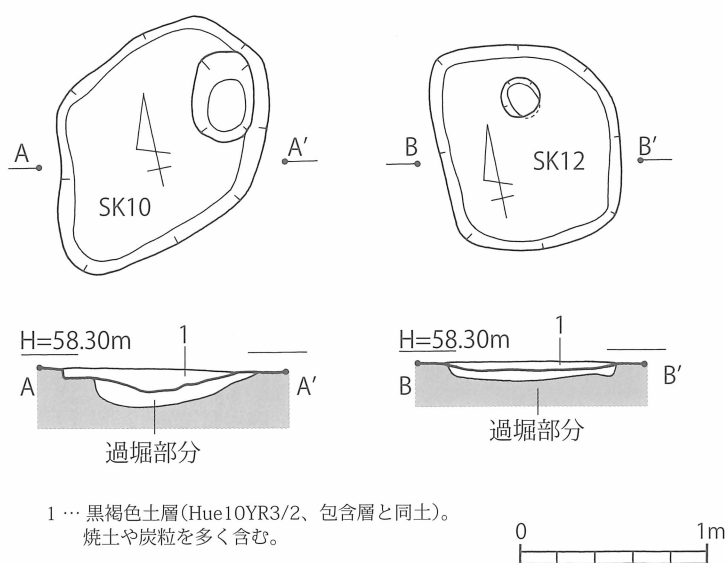
C10 グリッドで検出された、1 辺約 1 m の土坑であるが、掘削の際の不手際でやや掘り過ぎてしまい、正確な形は不明である。遺構検出面からの深さは約 10cm と浅い。

SK17 出土遺物を第 28 図に示す。1 は土師器の小皿であり底部は糸切り技法による。2～4 は土師器の坏であり、同じく底部は糸切り技法で切り離されている。5 は土師器坏の口縁部小片、6 は青磁碗の口縁部片、7 は土錘である。

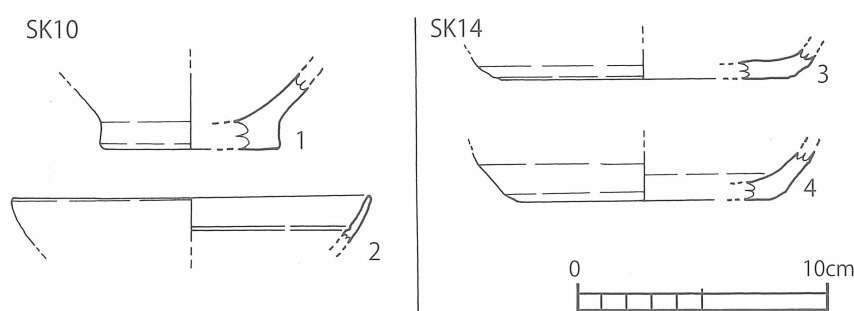
SK18 (第 29・30 図)

C10 グリッドで検出された土坑である。長辺が 1.6m、幅が最大箇所 0.8m の、瓢箪形の平面形となっているが、掘削時の土層観察の結果から、本来は 2 つの土坑であったものと判断した。なお、調査時は当初 1 つの土坑と判断しており、出土遺物も区別が出来なかったことから、本報告では SK18 として報告する。

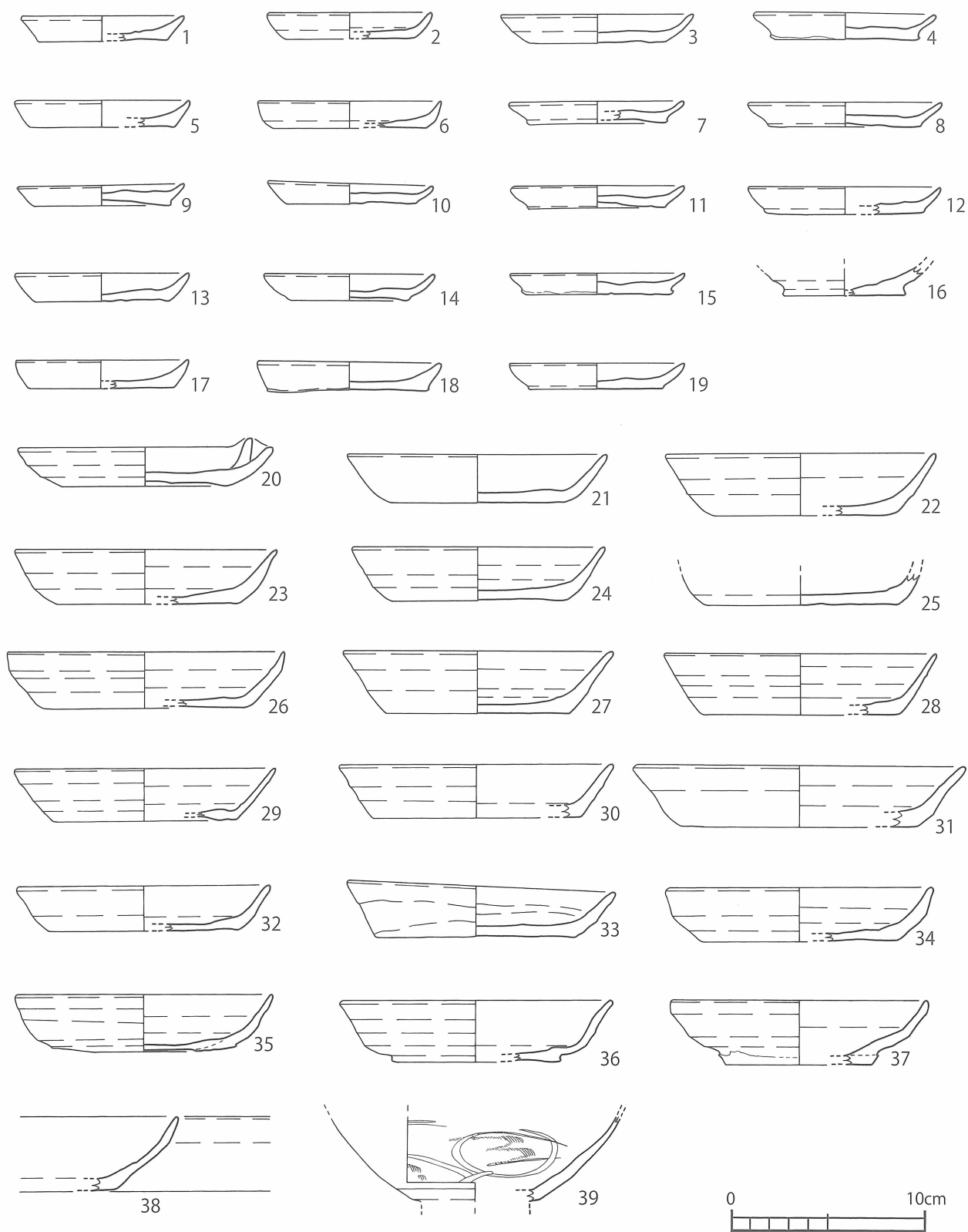
出土遺物を第 30 図に示す。1・2 は小皿であり口径は約 9 cm であり、底部は糸切りである。3～5 は土師器坏であり、底部は糸切り技法がなされている。6 は甕形土器の口縁部小片であり、古墳時代後半～古代に属するものと思われる。7 は須恵器の頸部である。



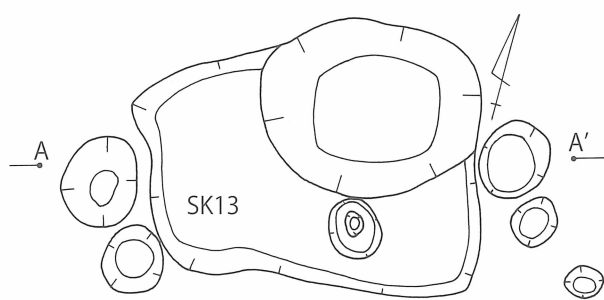
第 19 図 中甸遺跡 SK10・12 実測図 (S=1/40)



第 20 図 中甸遺跡 SK10・12 出土遺物 (S=1/3)



第 21 図 中甸遺跡 SK09 出土遺物 (S=1/3)

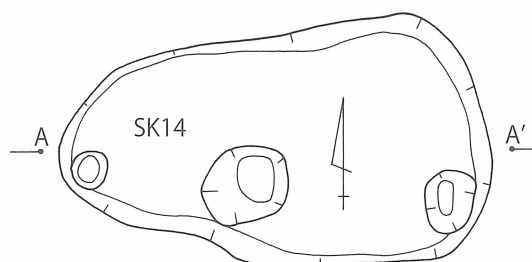


H=58.30m

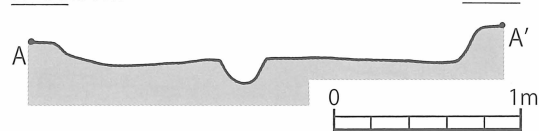


- 1 … 黒褐色土層(Hue10YR3/2、包含層と同土)と
基盤層(Hue10YR3/4)との同土層。混入物少。
2 … 黒褐色土層(Hue10YR3/2、包含層と同土)に
基盤層(Hue10YR3/4)ブロックが混じる。

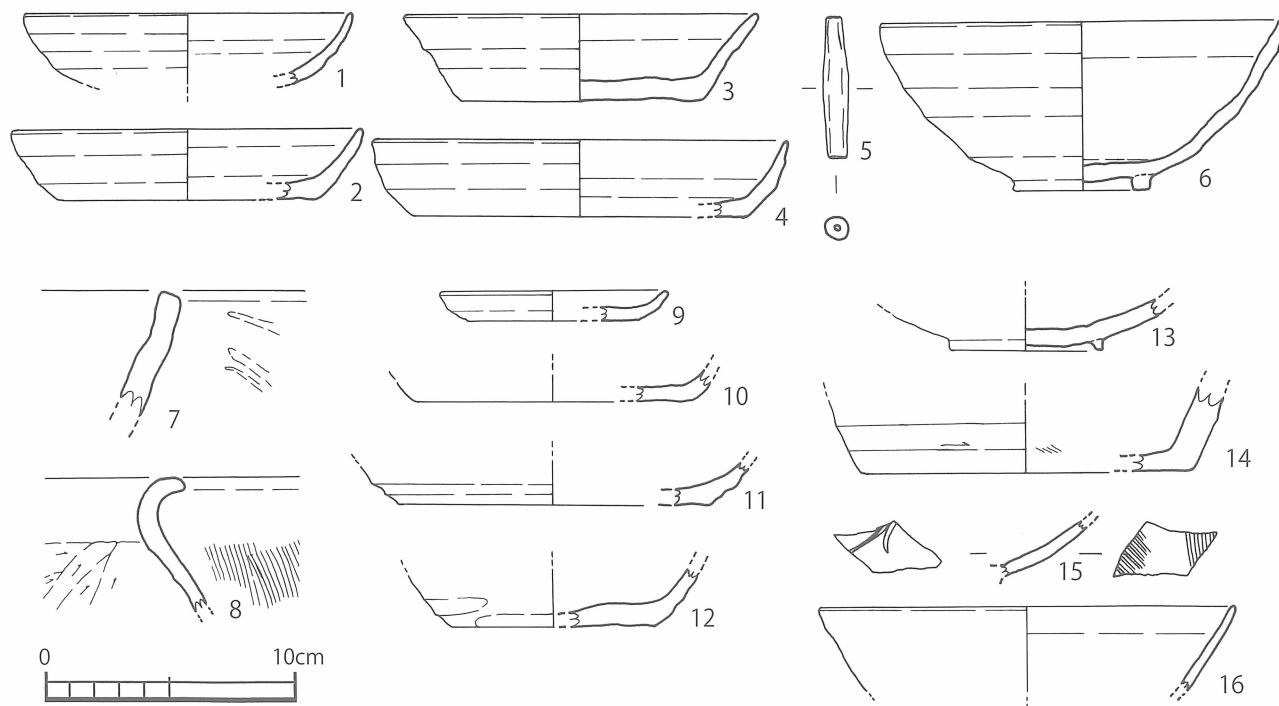
第22図 中甸遺跡 SK13 実測図 (S=1/40)



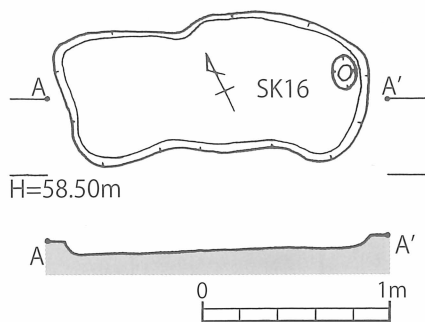
H=58.30m



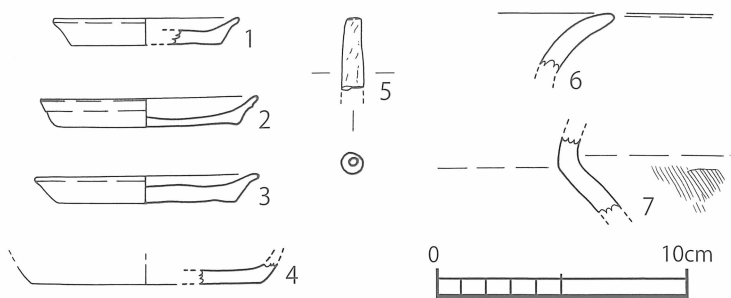
第23図 中甸遺跡 SK14 実測図 (S=1/40)



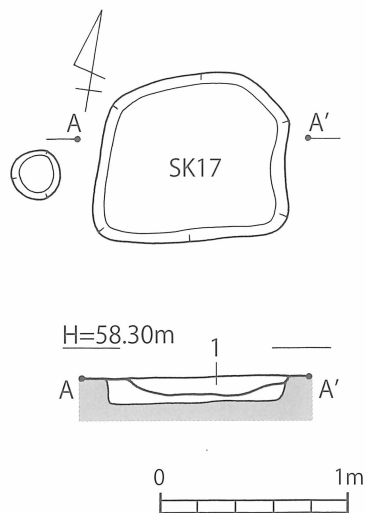
第24図 中甸遺跡 SK13・15 出土遺物 (S=1/3)



第25図 中甸遺跡SK16実測図 (S=1/40)

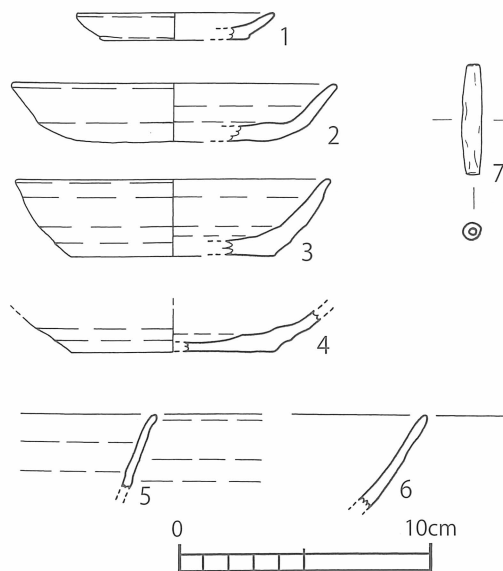


第26図 中甸遺跡SK16出土遺物 (S=1/3)

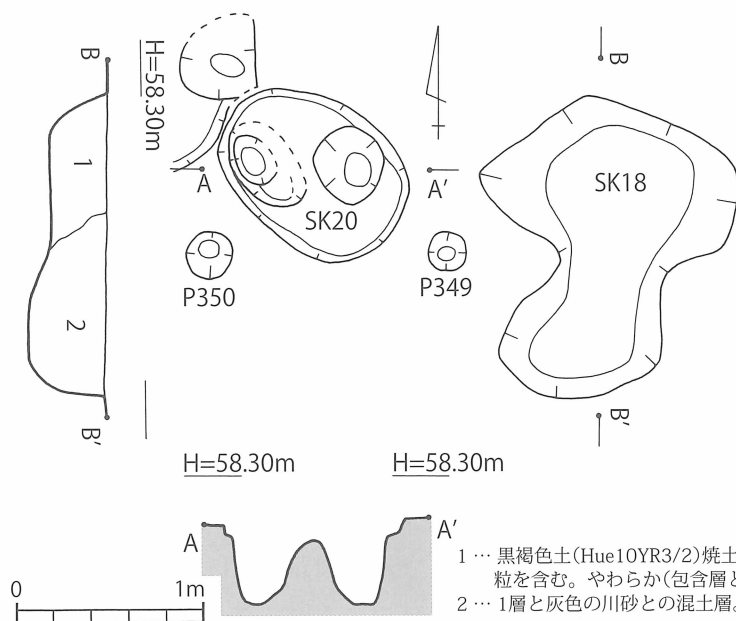


1 … 黒褐色土層(Hue10YR3/2、包含層と同土)と
基盤層(Hue10YR3/4)との混土層。焼土粒を含む。

第27図 中甸遺跡SK17実測図 (S=1/40)

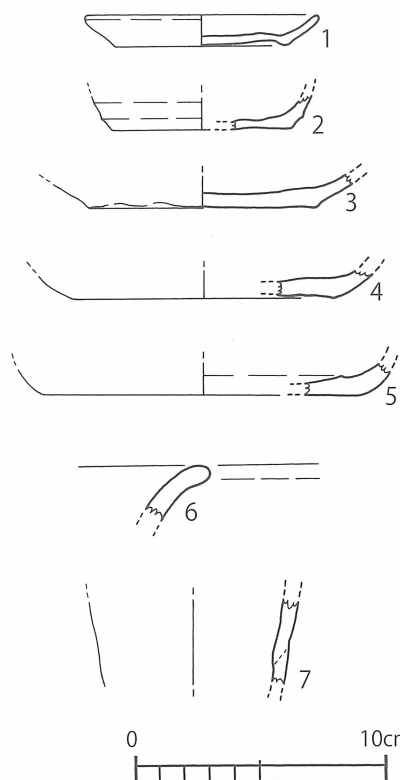


第28図 中甸遺跡SK17出土遺物 (S=1/3)

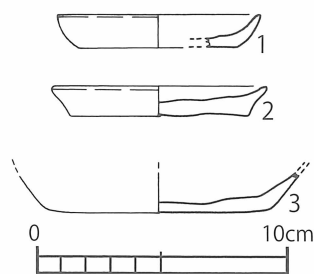


1 … 黒褐色土(Hue10YR3/2)焼土や炭
粒を含む。やわらか(包含層と同土)。
2 … 1層と灰色の川砂との混土層。

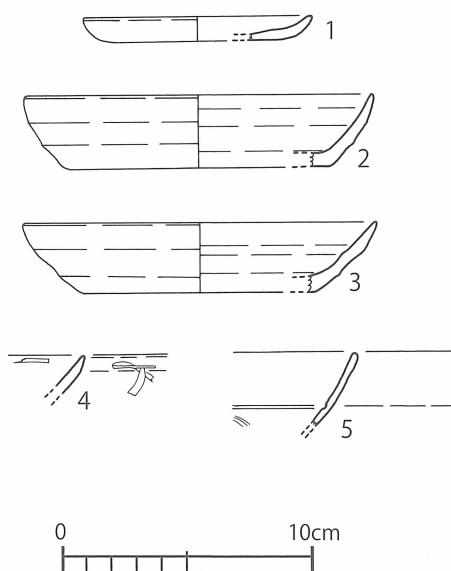
第29図 中甸遺跡SK18・20実測図 (S=1/40)



第30図 中甸遺跡SK18出土遺物 (S=1/3)



第 31 図 中甸遺跡 SK20
出土遺物 (S=1/3)



第 32 図 中甸遺跡 SK21・22 出土遺物 (S=1/3)

SK20 (第 29・31 図)

B10 グリッドで検出された土坑で、1 m × 80 cm の楕円形をした土坑で、検出面からの深さは約 5 cm と非常に浅い土坑である。出土遺物のうち図化できたものは 3 点あり (第 31 図)、1・2 は土師器の小皿で口径は約 8 cm で底部には糸切り技法が採用されている。3 は土師器の坏であるが、磨滅のため調整の詳細は不明である。

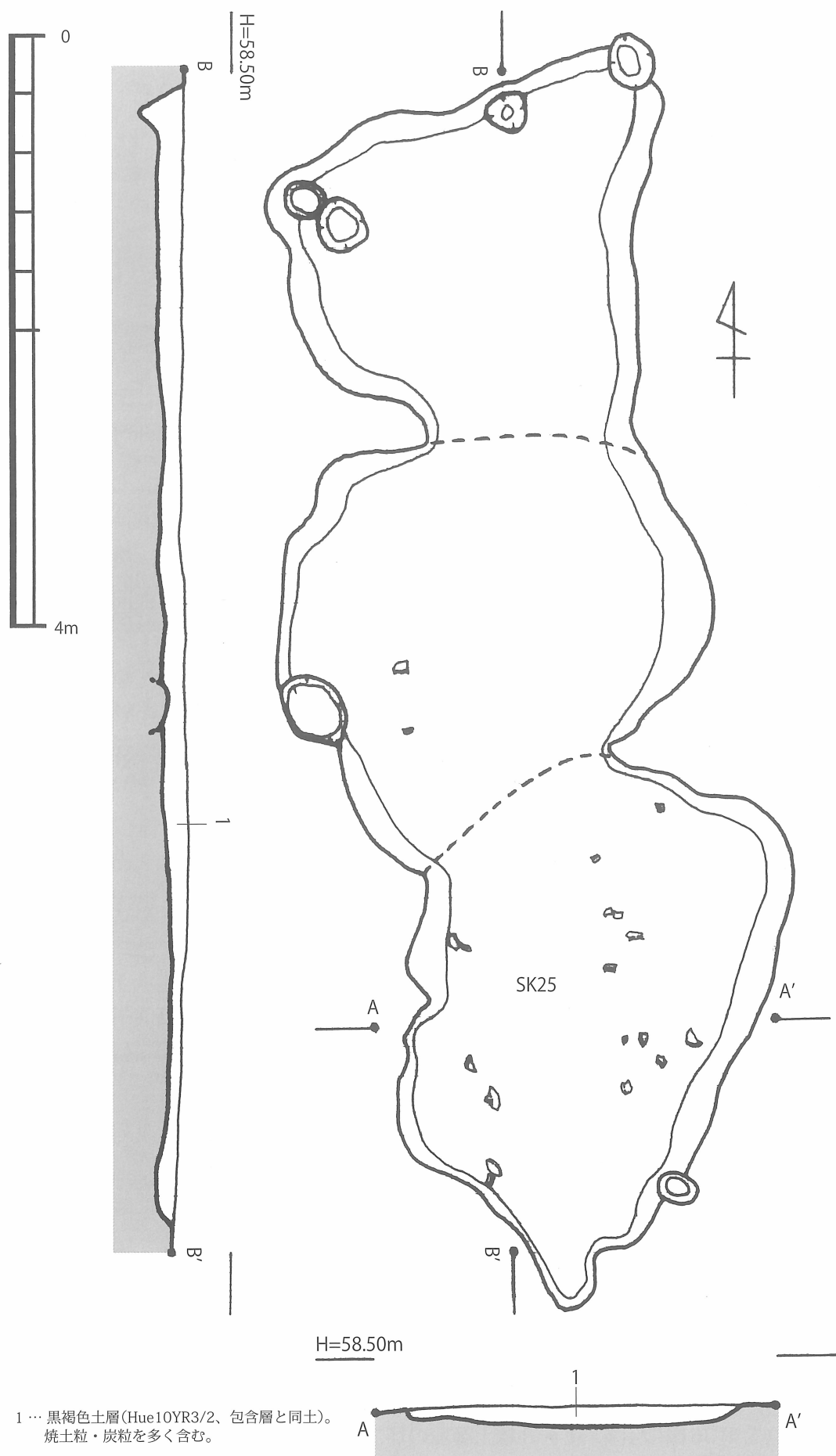
SK21・22 (第 32 図)

当初、土坑として調査をしていたが、掘削の結果、根の跡等が確認されたことから、旧地形のくぼみ等の可能性もあるが、樹痕と判明したものである。なお、南側には後述する SD01 流路が、調査区内では一番北側に張り出す部分でもあり、SK21・22 より西側ではやや柱穴の可能性がありそうなピットは減少することが調査時の実感として感じられた。以下は推測であるが、この位置に区画等の意図の構造物 (垣根、区画溝・植栽・流路等) がある可能性も否定できないが、今回の調査区の範囲内では明確ではなかった。今後、今回の調査区の北側を調査する機会があった際には、検討課題のひとつである。

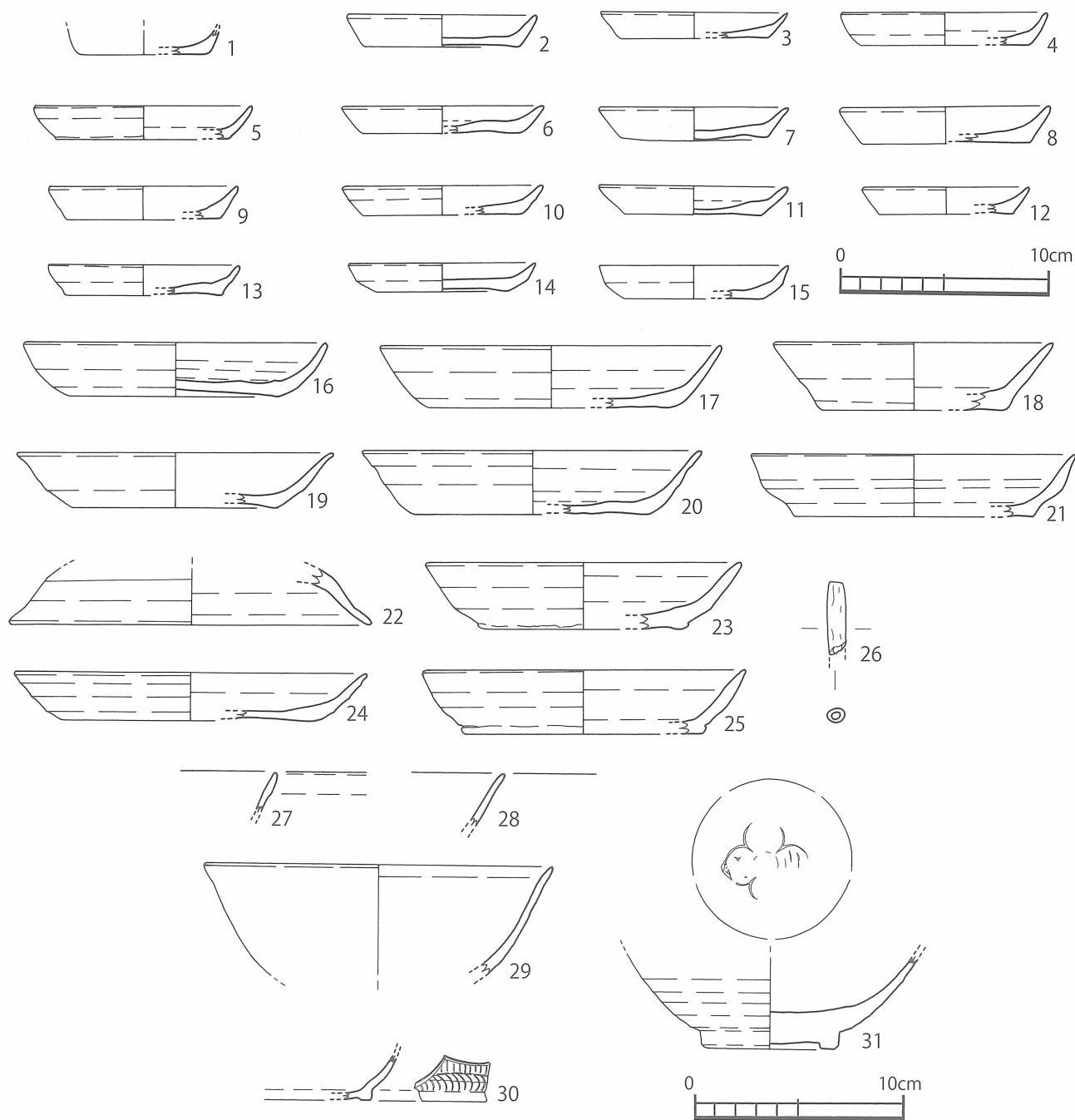
SK21・SK22 の出土遺物を第 32 図に示す。1 は土師器の小皿、2・3 は土師器の坏であり、底部は糸切り技法による切り離しである。4・5 は青磁碗の口縁部片である。6 は瓦質土器のこね鉢の口縁部片、7～9 は青磁碗の底部片である。

SK25 (第 33・34 図)

SK25 は調査区の南端部、E11～E12 グリッドで検出された。当初、検出した包含層面でも土器片が多く出土する状況があり、掘り下げを進める中で方形の区画にも見えたため、竪穴建物跡等の可能性を考慮しつつ調査を進めたが、結果として北側に広がっていき、第 33 図の形状となった。SK25 内も精査を重ねたが、柱穴になりそうなピットや火処になりそうな炉跡やカマド等も確認されなかったため、土坑と判断した。ただし、SK25 南側の調査区外は、5 m ほど南に行ったところで星野川があり、南側に向かって下降する地形でもあるため、遺構ではなく東側に張り出す微高地中のくぼみであり、そのために土器片が多く集まってきている可能性も否定はできない。ただし、SK25 には完形の土器も多く集まって出土して



第 33 図 中旬遺跡 SK18・20 実測図 (S=1/80)



第 34 図 中甸遺跡 SK25 出土遺物 (S=1/3)

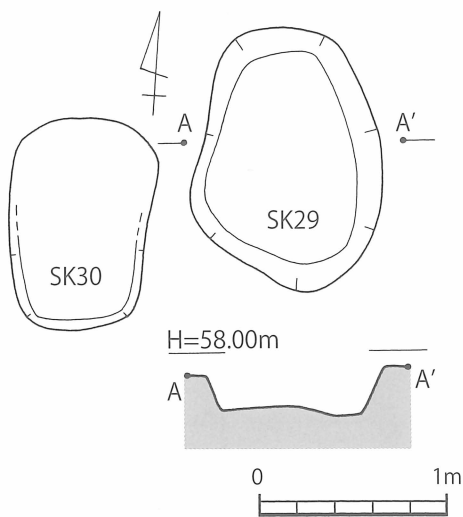
いるため、この土器の集中出土は人為的なものとして捉えられると思われる。

SK25 出土土器を第 34 図に示す。1～15 は土師器の小皿であり、断面形態にはさまざまな形態が確認できる。口径は 8～9cm 程度であり、底部には糸切り技法が採用されている。16～21、23～25 は土師器の坏、22 は土師器の蓋、26 は土錘である。

SK29 (第 35・36 図)

SK29 は 2 区調査区の西側で検出された土坑である。

SK29 出土遺物を第 36 図に示す。1～3 は土師器の坏である。4・5 は土師器の小皿で口径は約 8cm で、底部には糸切り技法が用いられている。6・7 は龍泉窯系と思われる青磁碗である。



第 35 図 中甸遺跡 SK29・30
実測図 (S=1/40)

④ 2区東側土器集中箇所 (第3・37図)

発掘調査に入り表土除去をした段階で、2区の東半分は河原になっていることが明らかとなり、遺構も精査したが確認はできなかった。ただし、2区東半部の南端の2箇所で土器が集中して出土する範囲が確認された。そこからは土師器の小皿や青磁碗等が出土し、土器の残存状態はあまり磨滅もしておらず、完形に近い土器や青磁も確認されるため、流れ込み等ではなく、人為的に置かれたか廃棄されたものと思われる。そこで、「土器集中箇所」として認識し、土器集中部1～土器集中部4の地点番号を付し、出土状況の写真記録を作成しながら遺物の取り上げを行なった。なお、出土状況は遺物もかなりの高低差を持っている状況もあり、時間的に作図をする体制が取れなかったので、調査時には写真のみの記録に留めざるを得なかった。

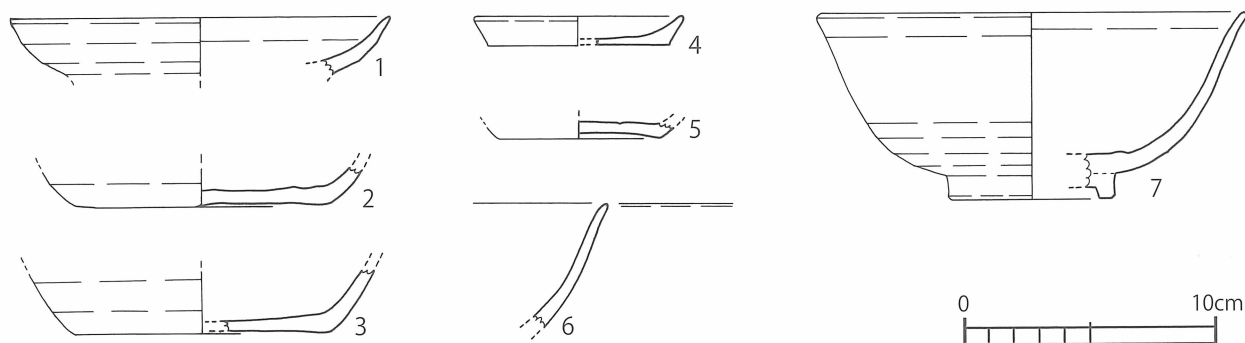
以下に、土器集中部で出土した土器について報告する。出土した遺物のうち図化できたものの中の一部を第37図に示す。なお、他にも実測可能な遺物は存在したが、出土遺物や出土状況を検討した結果個数に有意な意味はなさそうであった為、同形の個体は省いている。その他、土器集中部西側の河原上で採取された遺物を併せて報告する。

1～7は土器集中部1より出土した遺物である。1は小皿で、口径は約9cmである。底部は糸切り技法が使われている。2は龍泉窯系の青磁碗の口縁部である。3・4は土師器の坏であり、底部は糸切り技法が用いられている。5～7は鍋の口縁部片で、口縁部上面には刻目が施されている。

土器集中部2より出土した土器のうち図化できたものは1点のみであり、8は、土師器の坏である。口径は14cmで、底部には糸切り技法が用いられている。

9～14は土器集中部3より出土した遺物である。9・10・13は土師器の坏であり、底部には糸切り技法が用いられている。11は黒色土器であり、内外面共に黒色化している。12は青磁碗の底部片であり、14は鍋の口縁部片である。

15・16土器集中部4より出土した遺物である。は青磁碗である。15は内面にへら状工具による施文、16は外面に蓮弁文を有する。17は土師器の小皿、18は土師器の坏であり、ともに底部は糸切り技法が採用されている。19は甗の把手である。



第 36 図 中甸遺跡 SK29 出土遺物 (S=1/3)

⑤ 遺物包含層（遺構検出面）出土の遺物およびピット出土遺物（第 38 ～ 40 図）

ここで、2 区のうち、遺構が発見された西半部分について、包含層出土としてグリッド単位で取り上げた遺物を報告する。なお、包含層としているが、ほとんどが遺構検出面から数センチ程度上位であった遺物であり、遺構検出面出土とほぼ同義である。2 区調査区内では特にまとまりをもって出土する等の出土状況は確認できていない。ただし、2 区は柱穴になるとされるピットが多数検出されていて、掘立柱建物が本報告以上に存在していた可能性が高いため、参考資料として提示する。なお、出土遺物は 2 区全体でも 12 世紀後半を前後する時期と思われるもので占められている状態であり、包含層出土遺物の時期が中甸遺跡集落の存続時期を端的に示していると思われるため、その意味においてここで掲載をしている。

以下、出土遺物を示すが、遺物の詳細は観察表（第 1 表）を参照されたい。

第 38 図は 2 区西側の A ～ C グリッド出土の遺物である。38 図 1・2 は A グリッド出土である。1 は土師質の土器の把手である。2 は土師器の小皿で底部は糸切りの後板状工具によるナデ調整がなされている。3 ～ 6 は B グリッド出土の遺物である。3・4 は青磁碗、5 は青磁の壺等の口縁部片である。6 は縄文式土器の口縁部片であり、縄文時代後晩期に属するものと思われる。38 図 7 ～ 10 は C グリッド出土の遺物である。7 は土師器の甕の口縁部片、8 は須恵器の底部片、9 はこね鉢の口縁部片である。10 は滑石製の石鍋片であるが、破損後再利用がなされた等の痕跡は明確ではない。

第 39 図は D・E グリッド出土の遺物であり、このグリッド付近が最も柱穴が発見されている範囲であるので、どの建物かは明確ではないものの、掘立柱建物等に伴う遺物と考えられるものである。39 図 1 ～ 13 は D グリッド出土の遺物である。1・2 は土師器の小皿、3 は土師器の坏であり、底部には糸切り技法が採用されている。4 はやや青白い印象を受ける青磁であるが、合子等になるものと思われる。6 ～ 11 は土師器の坏である。断面形状は様々であるが、口径は約 14 ～ 15cm であり、底部には糸切り技法が採用されている。39 図 12 は鍋の口縁部片、39 図 13 は土師器の坏である古墳時代後期の可能性はある。39 図 14 ～ 40 は E グリッドから出土した遺物であり、E11 グリッド以外の遺物は、39 図 21・24・25・が E12 グリッド、32・35・38 ～ 40 は E10 グリッド出土で、その他は E11 グリッド出土と、E11 グリッドでの出土が多い。39 図 14 ～ 19・30・31 は土師器の小皿であり、口径は 8 cm 前後で底部には糸切り技法が採用されている。39 図 20・22 ～ 26・32 ～ 34 は土師器の坏であり、底部には糸切り技法ないし糸切り後に板状工具によるナデ調整が施されている。21・27・35・36 は青磁碗である。28 は土師器のこね鉢、29 は瓦質土器のこね鉢の破片であり一部に注口が確認できる。38 は青磁の底部片、39 は瓦質土器の播鉢片、40 は滑石製の石鍋片である。

第 40 図 1 ～ 5 は F グリッド出土の遺物であり、1・5 は F11 グリッド、2 ～ 4 は F10 グリッドからの出土である。1 は土師器の小皿である。2 は青磁碗、3・4 は播鉢ないしこね鉢の口縁部小片である。5 は土師器の甕の把手である。

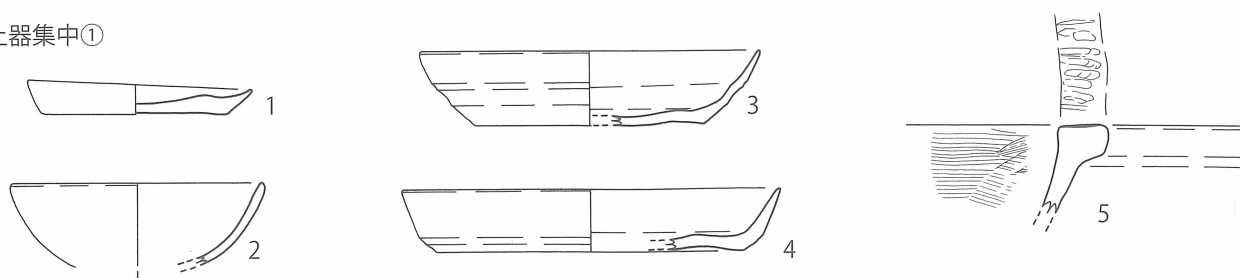
ピット出土遺物（第 49 図 6 ～ 35）

ピット内より出土した遺物のうち図化可能であったものについて、第 49 図 6 ～ 35 に示す。

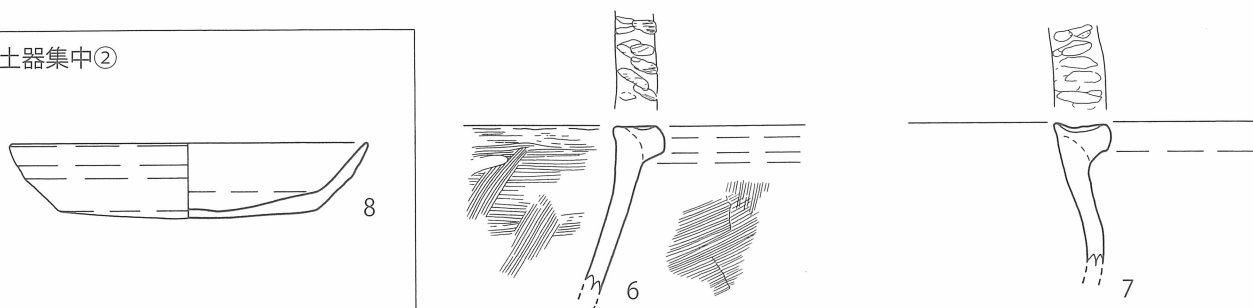
遺物には土師器の小皿（6・8・10・12・13・15・17・19・22・23・30）や、坏（7・11・14・16・25 ～ 29・32 ～ 35）が多く、その他に、土錘（9・21）、鍋（18・31）、播鉢ないしこね鉢（20）がある。

小皿は口径が約 8 ～ 9 cm であり、底部には糸切り技法が採用されていて、一部に底部を板状工具によるナデ整形がなされている個体が確認できる。坏も同様に、底部は糸切り技法による切り離しがなされて

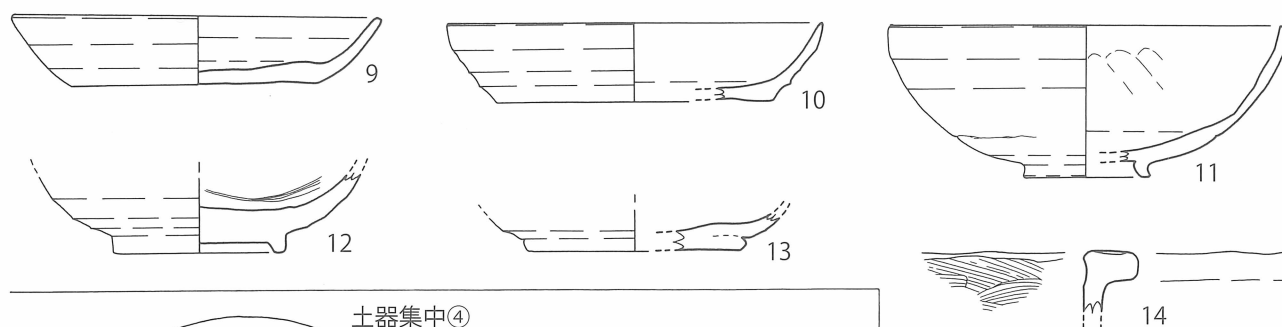
土器集中①



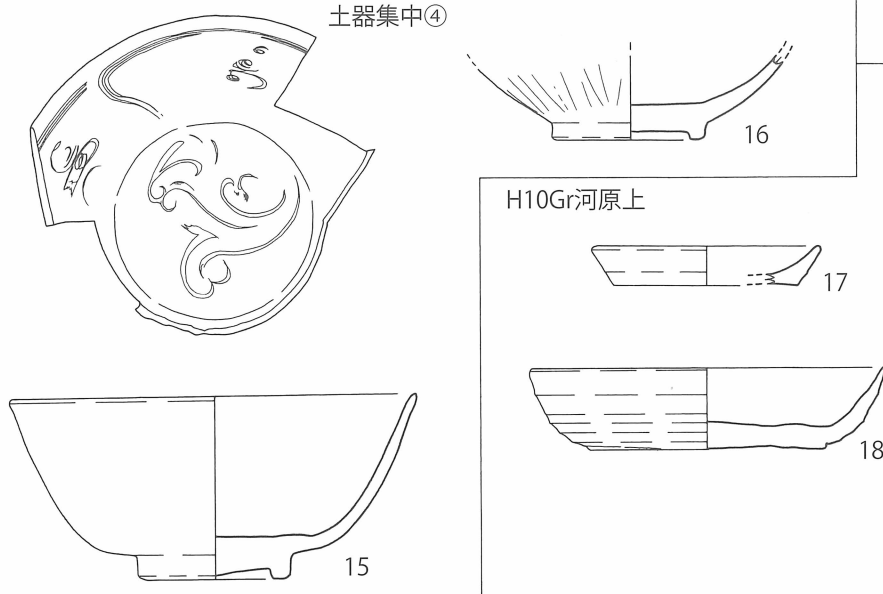
土器集中②



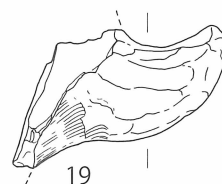
土器集中③



土器集中④

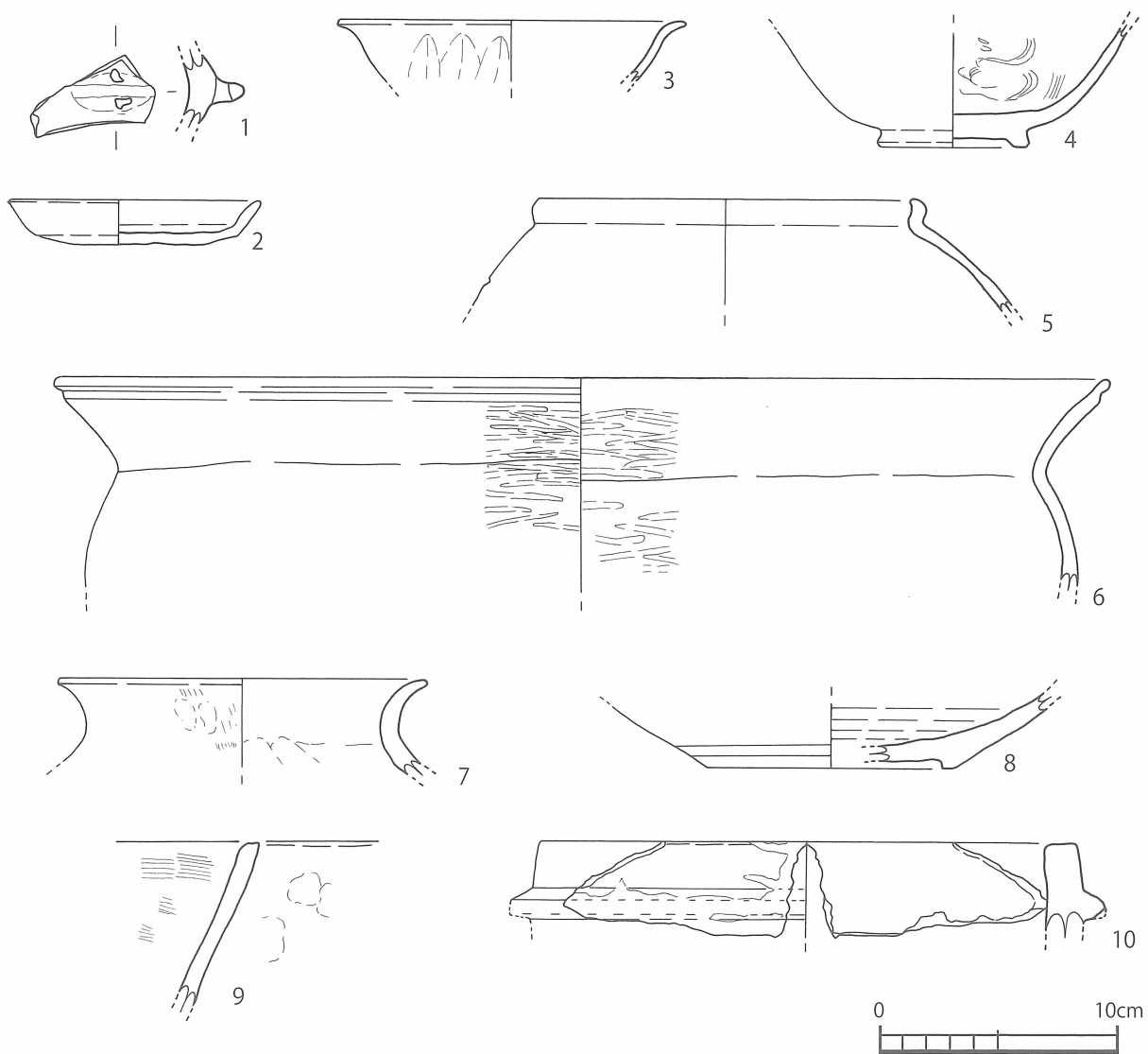


H10Gr河原上

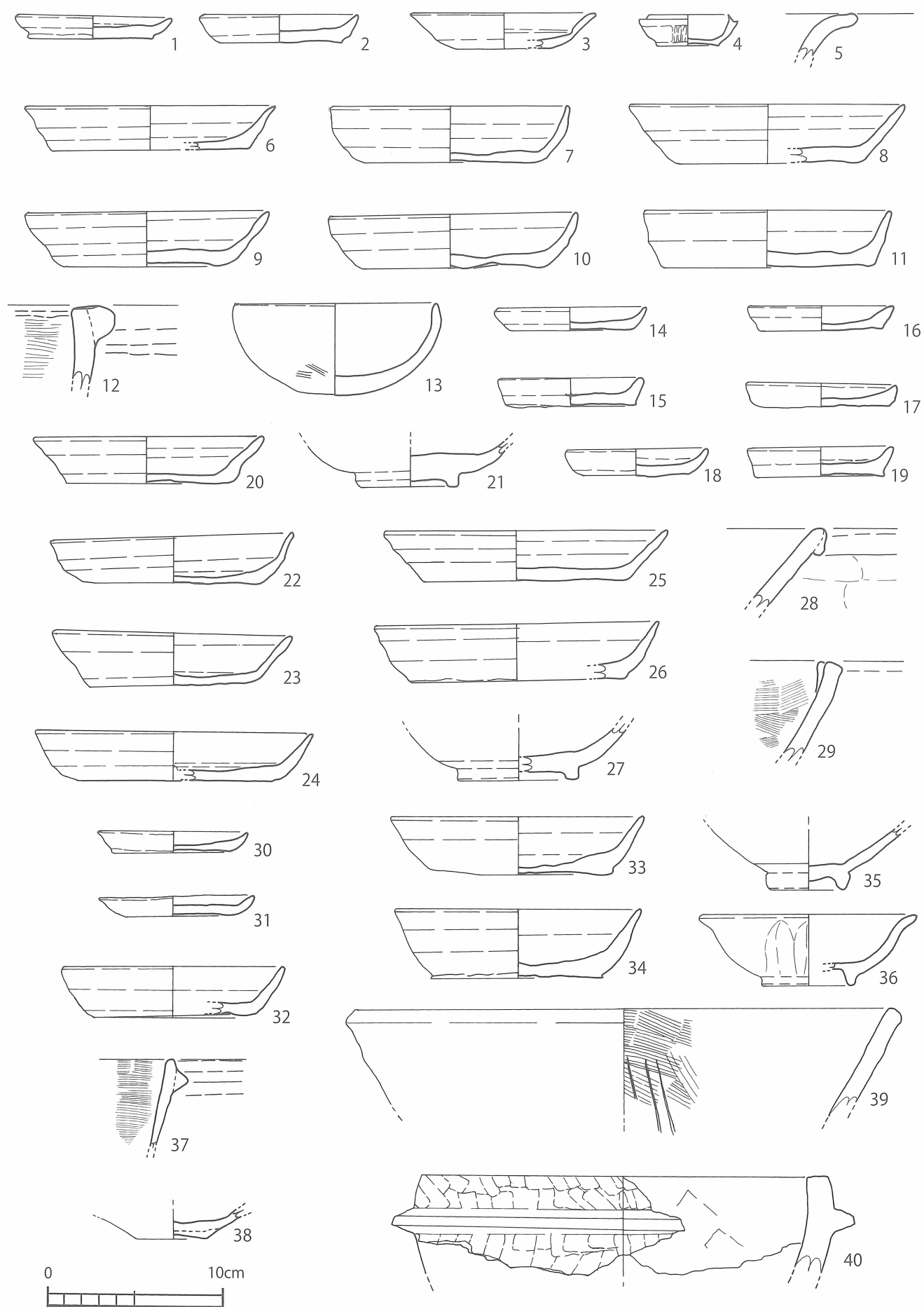


第 37 図 中甸遺跡 2 区土器集中部出土遺物 (S=1/3)

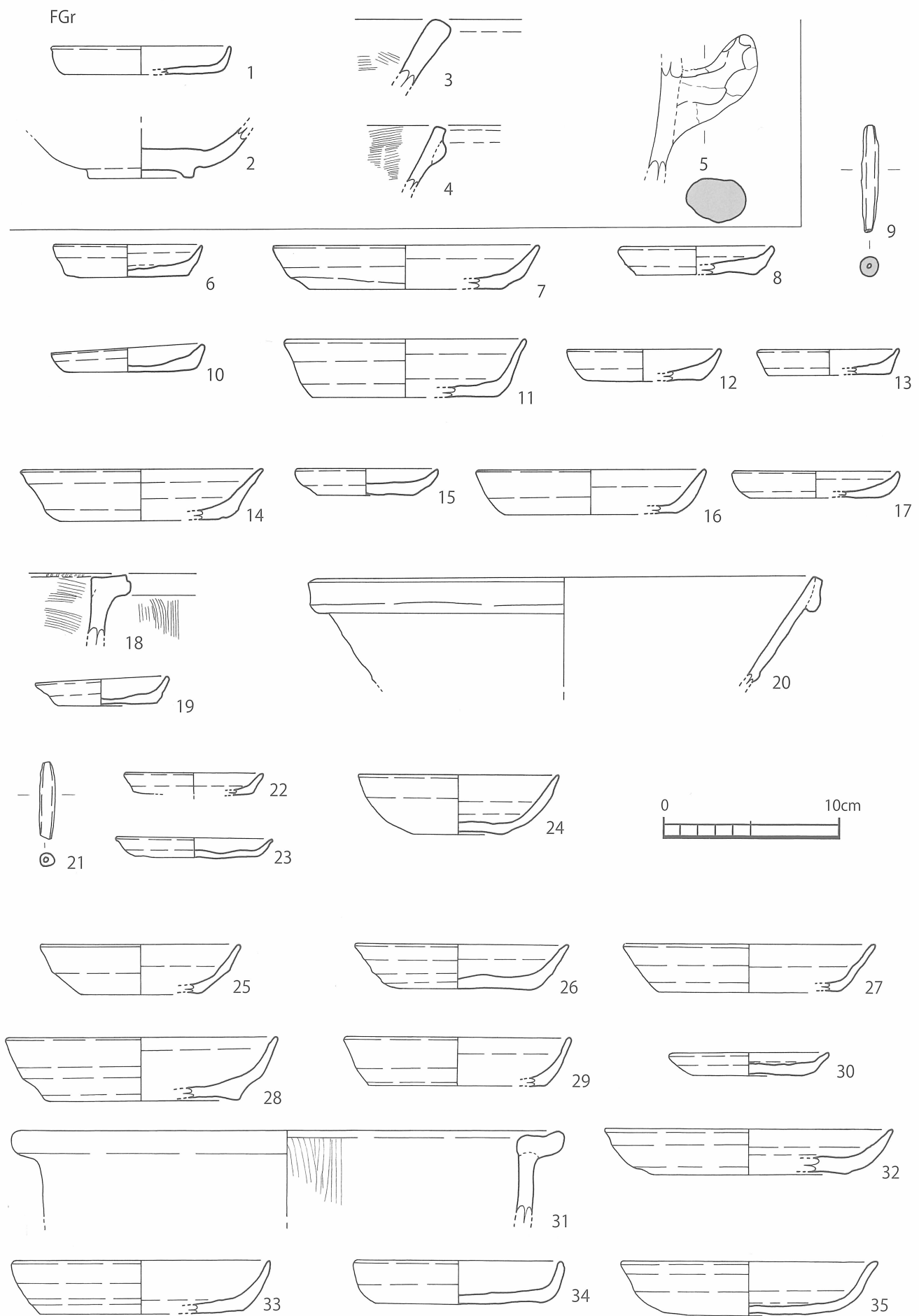
いるもので占められ、口径も 14 ～ 15cm 程度のものがほとんどである。寸法や調整技法等から、これらの小皿や坏は 12 世紀後半前後の所産であると思われる。前述の土坑等から出土している土器も同様の特徴を示しており、今回の調査区内で検出された遺構の時期も 12 世紀を前後する時期に絞られてくるものと思われる。



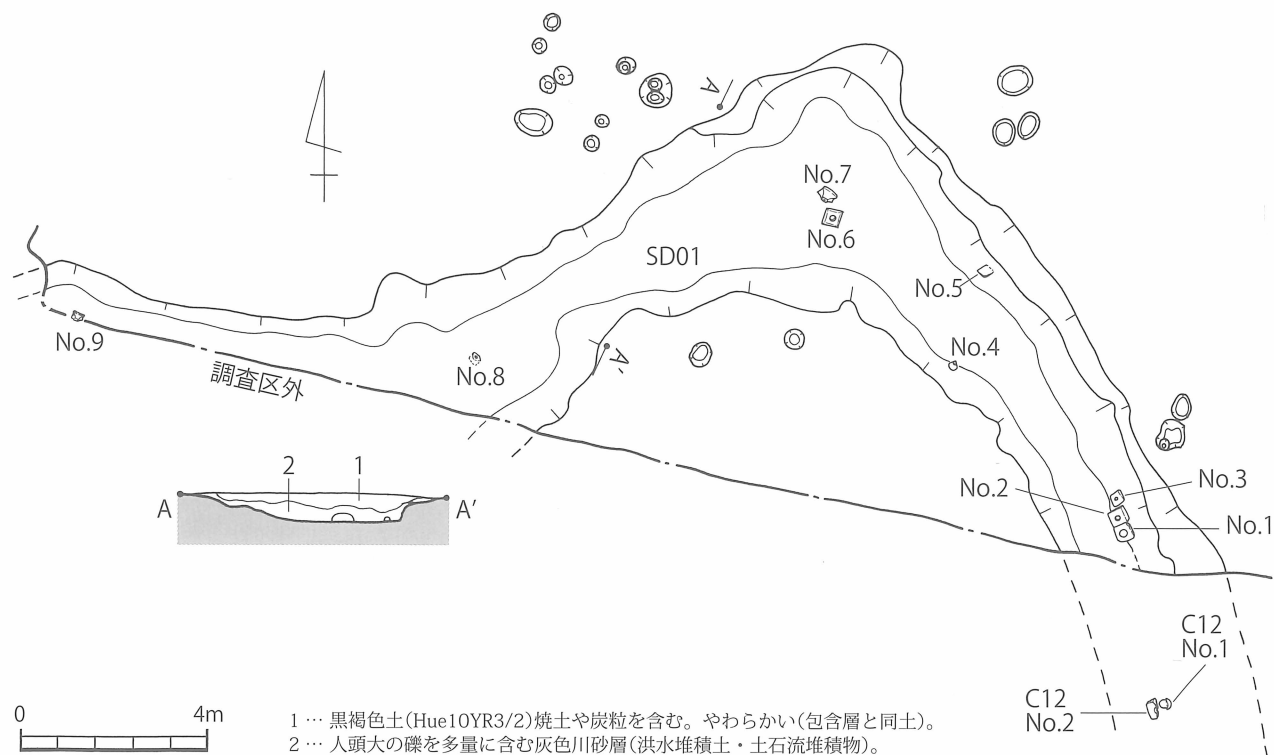
第 38 図 中甸遺跡包含層出土遺物 1 (S=1/3)



第 39 図 中甸遺跡包含層出土遺物 2 (S=1/3)



第 40 図 中甸遺跡包含層・ピット出土遺物 (S=1/3)



第 41 図 中甸遺跡 SD01 実測図 (S=1/160)

2) 近世前後の遺構と遺物

①溝状遺構 (SD)

SD01 (第 41 ~ 46 図)

調査区 2 区の西半部南側で検出された流路であり、南側は調査区外（南隣接の、現在の星野川）にのび、西側の調査区外にのびている状況が確認されるが、2 区西側は現況地形で 1.5 m 以上低くなっており、残存していない。流路は大礫を多く含む川砂層により埋没している状況が確認され、状況から洪水による土石流で埋没している。流路内からは、土器や五輪塔をはじめとした石塔が出土しているが、出土状況から土石流とともに流されてきたものと判断された。よって、近世以降に洪水により埋没した流路と判断した。

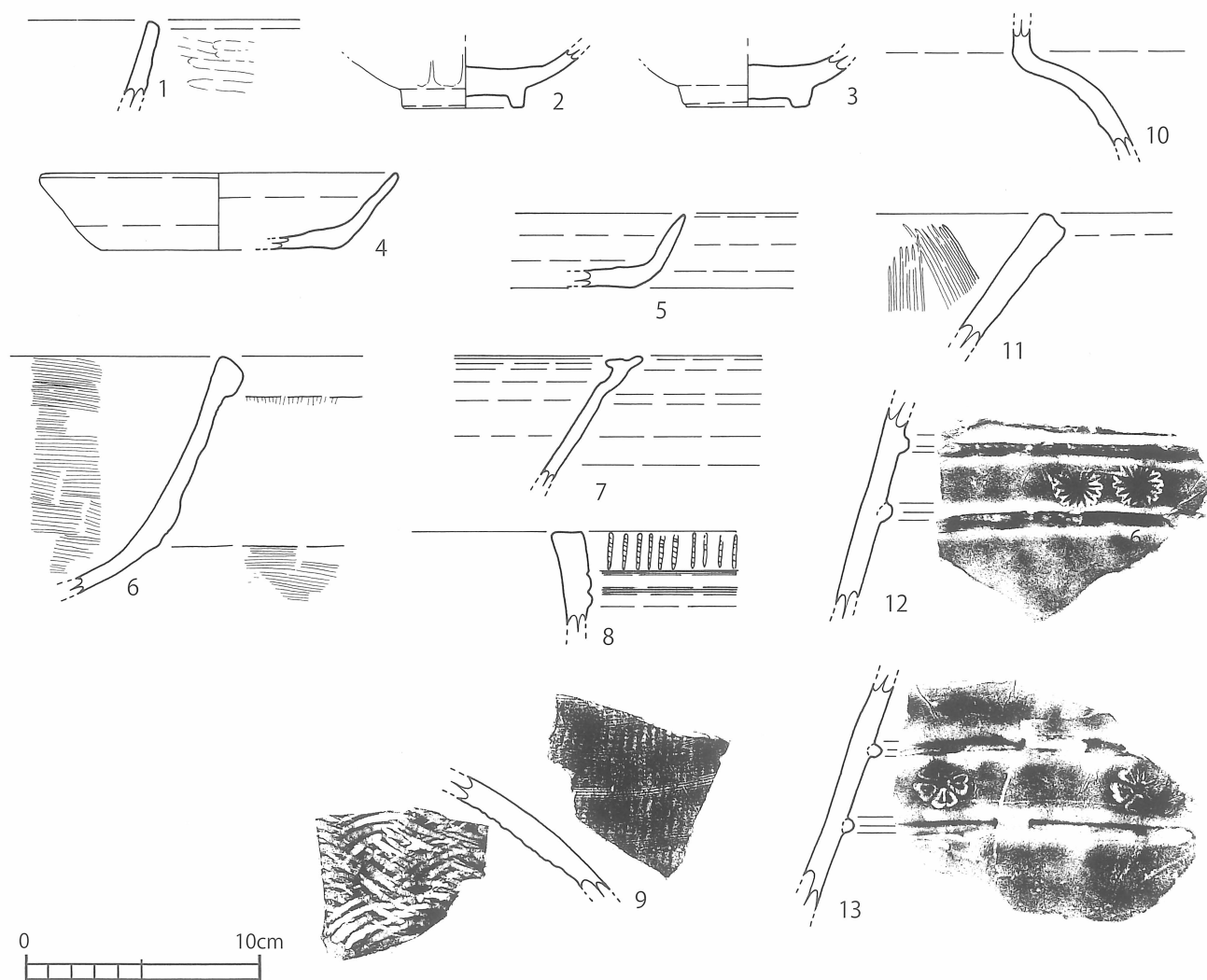
以上の状況から、SD01 は流路であることは疑いないと思われる。ただし、周辺地形を考慮しても、流路が流れる方向等はやや不自然な状況であり、人工的な掘削がなされた流路である可能性も残る。

SD01 より出土した土器等について、第 42 図に示す。1 は縄文式土器の口縁部片であり、外面に条痕調整が施されている。2・3 は青磁の破片の下半部である。4・5 は土師器坏であり、底部は糸切りによる仕上げがなされている。6 は土師器の鍋である。7 は小根鉢の口縁部と思われる破片である。8 は火鉢の口縁部片である。9 は須恵器甕の胴部片であり、内外面にタタキ目が確認される。10 は土師器の壺の破片、11 は播鉢の小片、12・13 は火鉢の胴部片であり、それぞれ突帯とスタンプ文が確認できる。

② SD01 出土石塔 (第 43 ~ 46 図)

石塔は前述の通り、流路内から土石流に伴うと思われる川砂や大礫とともに出土しているが、SD01 内に点在して出土している。出土状況からも、SD01 の底面から浮いている状況での出土であり、もともとその場所に存在していた石塔ではなく、洪水により土石流とともに流入したものと考えられる。

なお、出土位置は第 41 図を参照されたい。以下、各石塔について所見を記す。



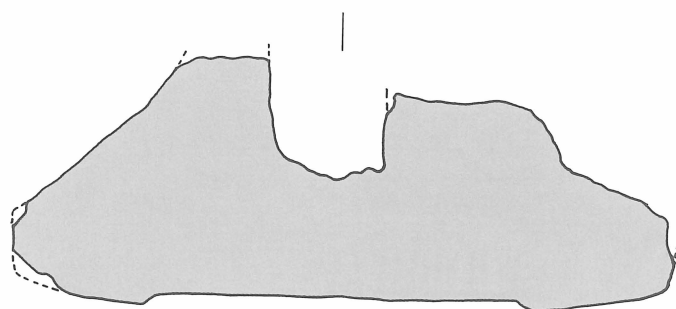
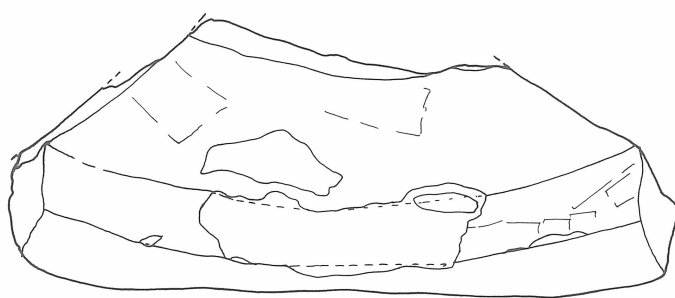
第 42 図 中甸遺跡 SD01 出土遺物 (S=1/3)

第 43 図 1 は、五輪塔の火輪もしくは宝塔の笠部と思われるものであり、凝灰岩製で上部を破損により欠く。残存高は 14.4cm で、幅は約 35cm である。上面から側面に向けて 1 箇所トンネル状の孔が存在するが、人為的に穿孔することは困難であると思われることから、もともと石材に孔が空いていたものと思われる。上部にはほぞ穴があり、下面にもくぼみを有している。第 43 図 2 は五輪塔の地輪もしくは宝塔の基礎と思われるもので、凝灰岩を丁寧に加工し製作されているが、下端部のくぼみ部分はやや粗い造りである。高さ 14.3cm、幅は約 35cm である。

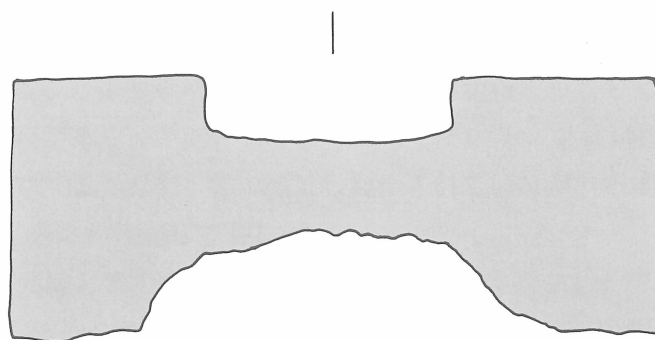
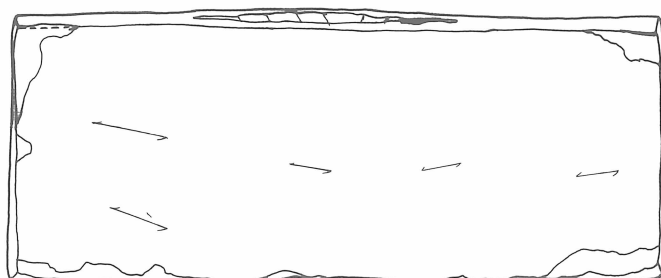
第 44 図 1 は五輪塔の火輪と思われる。高さ約 9.9cm、幅は約 26cm である。第 44 図 2 は、五輪塔の火輪の一部と思われる破片であり、約 1/2 が残存している。凝灰岩製で残存高は 14.9cm、幅は約 16cm である。第 44 図 3 は五輪塔の地輪もしくは宝塔の基礎と思われるものである。凝灰岩製で高さ約 14cm、幅は 28cm である。上部と下部に石材を受けるものと思われる窪みないしえぐりが確認される。表面はやや粗い造りで、表面にノミ等の工具痕跡が残る箇所も確認される。第 44 図 4 は五輪塔の火輪と思われる。凝灰岩製で高さ 17.9cm、幅 34 ～ 35cm である。上部と下部にほぞ穴を有している。

第 45 図 1 は五輪塔の火輪と思われる。他の火輪と比して、幅に対しやや高さがある特徴を有する。高さ 14.7cm、幅は約 35cm であり、上面と下面にほぞ穴を有している。戦国期の所産か。第 45 図 2 は五輪塔の火輪の破片である。凝灰岩製で、高さ約 14.9cm、幅約 23cm である。第 45 図 1 と同様の形状と思われる。第 45 図 3 は五輪塔の火輪である。凝灰岩製で高さ 14.5cm、最大幅は 28cm である。

第 46 図 1 は五輪塔の空風輪である。凝灰岩製で高さ 22.7cm、最大幅約 17cm である。丁寧な造りであるが、外面には整形時の工具痕も確認される。14 世紀～15 世紀の所産か。46 図 2 は、五輪塔の地輪の破片と思われる。凝灰岩製で、高さは 15.7cm、幅は約 34cm である。やや精巧な造りである。第 46 図 3 は凝灰岩製であるが、破片であり全体の形状が不明である。下からみると円弧を描くようなカーブを有していることから、ほぞ穴上の孔が空いているものと思われるが、受部とはやや異なる印象を受ける。可能性としては、塔婆そのものではなく、花瓶等の構造物であった可能性が考えられるが、小片のため不明な点が多い遺物である。



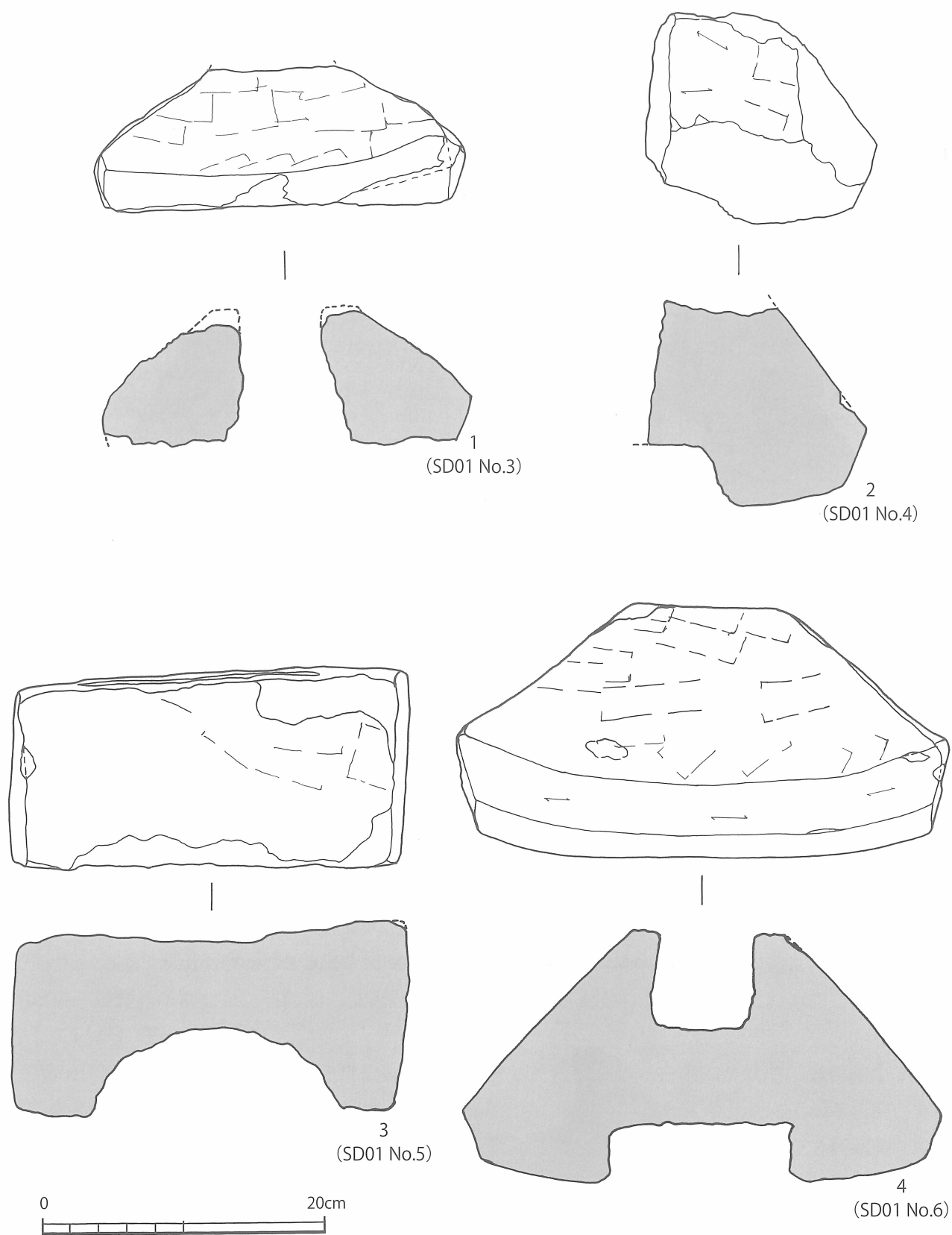
1
(SD01 No.1)



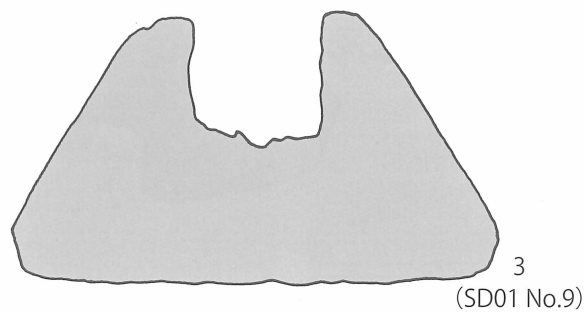
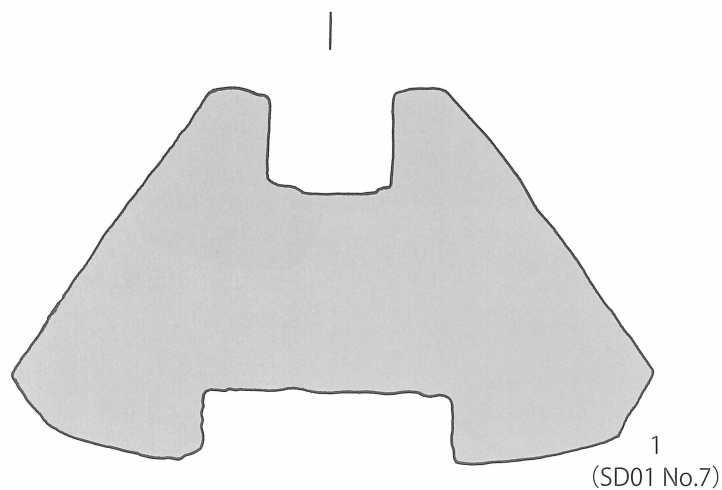
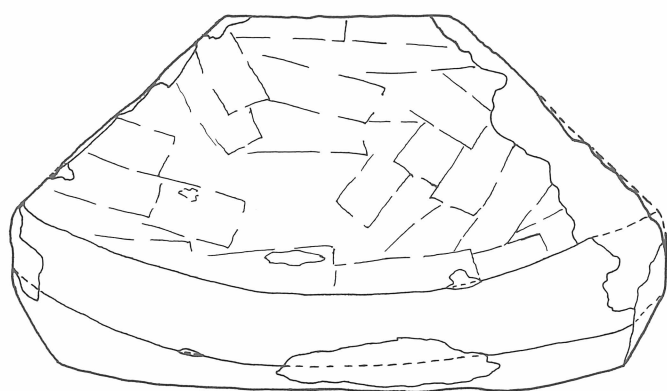
2
(SD01 No.2)



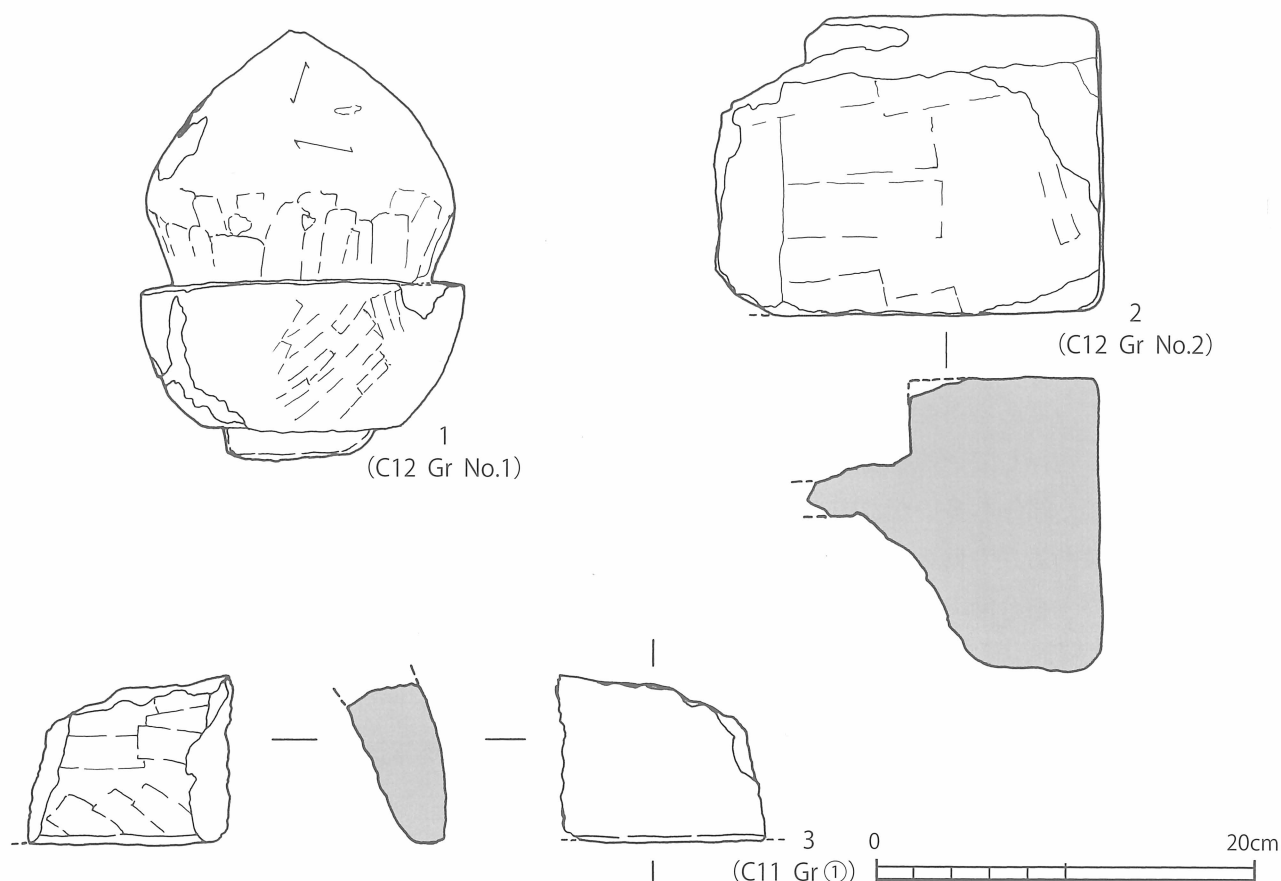
第 43 図 中甸遺跡 SD01 出土石造物 1 (S=1/ 8)



第 44 図 中甸遺跡 SD01 出土石造物 2 (S=1/ 8)



第 45 図 中甸遺跡 SD01 出土石造物 3 (S=1/ 8)



第 46 図 中甸遺跡 SD01 出土石造物 4 (S=1/ 8)

5 総括

以上、本報告では、矢部川災害復旧助成事業（星野川筋長野地区）に伴う発掘調査である、中甸遺跡の発掘調査に関し報告した。最後に改めて、今回の調査成果概要を記して結びとしたい。

中甸遺跡は、八女市長野地区に所在し、旧八女市域に広がる平野部の東端部分にあたり、新しく八女市と合併した旧八女郡東部（黒木町・上陽町・星野村・矢部村）へと向かう際の、平野部と山間部との結節点であり、交通の要所のひとつである。その為でもあると思われるが、中甸遺跡周辺には、長野古墳群や犬尾城跡、長野石塔群など、各時期の文化財も多く存在することからも、各時代におけるこの地の重要性を示しているものとも言える。

今回の中甸遺跡発掘調査では、12世紀後半を中心とした古代末から中世にかけての集落跡の一部が発見された。なお、今回の調査結果より、中甸遺跡の集落中心域は今回調査区の北側に広がる状況が明確となったことは成果のひとつである。今回の調査区2区の状況を見ても、多くの建物跡が2区北側を中心に存在していることはほぼ疑いない。今回の調査区の北隣接地周辺は現在農地として耕作がなされているが、特に2区北側では表土層直下が遺構検出面となる状況であるので、今回の調査区周辺での開発の際には、文化財保護の観点では今後も細心の注意を要するものと思われる。

今回の調査区では、1区東半部と2区東半部では表土除去後に河原が検出され、遺構は確認されなかったが、2区東半部分では土師器や青磁等が集中出土する箇所が確認された。2区東半部分は中甸遺跡集落に隣接する河原であったと思われる、遺構は確認されなかったため遺物の存在のみで証拠は皆無であるが、星野川や矢部川を往来する際の船着き場等として使用された可能性は想定できるかもしれない。

また、1区の西端部では、遺物の出土はなかったが、旧地形が微高地状に高くなる箇所が確認され、柱

穴や溝跡・土坑等の遺構が発見された。また、2区の西半部分では多くの遺物とともに柱穴や溝跡・土坑等の遺構が発見された。時期は出土遺物から、12世紀後半前後の時期が想定される。ただし、今回の調査の出土品からは、あまり時期幅はなさそうな印象を受ける。周辺地形も考慮すると、1区東端部、2区西半部はともに、中甸遺跡集落の南端部分に該当するものと思われる。

また、2区の南西部分では土石流により埋没した流路と思われる溝状遺構（SD01）が発見され、土石流堆積物と思われる埋土や大礫とともに五輪塔などの石塔が出土した。南隣接の星野川上流の、調査区東側にはもともと長野五輪塔群があり（現在は豪雨災害の為調査区北側に集めて保管されており、移設予定）、SD01出土の石塔等はもともとこの長野五輪塔群の一部であるか、もしくは星野川上流の旧上陽町等から流入したものである可能性がある。ただし、今回出土した石塔自体にはあまり磨滅等の痕跡は少なく、形状は良好に残存しているので、長野五輪塔群の石塔の一部である可能性が高いと思われる。石塔の時期は決め手に欠く部分も多いが、中世末から近世にかけての所産ではないかと思われる。

以上、雑駁ではあるが今回の調査の概要を記した。特にD・Eグリッド付近での掘立柱建物の検討はやや不十分な状況のまま今回の報告となっており、やや検討不十分な感が残っている。発掘調査時にも、認識できない多くの建物跡が存在している状況を感じていたが、十分な時間をかけることができなかったのが反省点である。時間等の制約より、本報告のうち特にD・Eグリッドでは、検出されたピットのうち柱穴の可能性が残るものについて、位置を掲載するに留まっている点を明記したにとどまっている点を付記しておく。

また、今回の発掘調査区外について最後に述べる。前述の通り、今回の発掘調査は中甸遺跡集落の南端部の一部を発掘調査したのみであり、中甸遺跡集落の大半はまだ現地保存されている状態である。今回の調査は長野西遺跡群でも初の調査事例であることから、集落が存在し残存している状況が確認できた点は大きな成果であったが、まだ中甸遺跡集落の範囲や規模、性格等は未だ十分に明らかとなったとは言い難い。長野地区は旧八女市域の平野部の東端にあたり、平野部と奥八女の山間部との接点に位置することから、交通の要衝のひとつであることは疑いない。中甸遺跡は12世紀後半前後の時期の、星野川や矢部川を利用した河川交通においても、重要な集落であった可能性を秘めている遺跡であると思う。今後の調査の進展により、長野地区の古代・中世の様相が明らかになるものと思われることを期待し、本報告の結びとしたい。

第1表 中甸遺跡出土遺物観察表①

遺跡名	図	実測 番号	種類	口径 (底径) c m	残存高 c m	残存	寸 法	調整 (内面 / 外面)	胎土	焼成	色調 (内面 / 外面)	備考
中甸遺跡 2区	第7図1	R-186	SB01 ③	土師器 小 皿	8.7 (7.0)	1.4	1/4	回転ナデ、指ナデ / 回転ナデ、糸切り後板目	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第7図2	R181	SB01	土師器 小 皿	(6.6)	1.7	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第7図3	R-187	SB01 ③	土師器 環	15.0 (10.5)	2.6	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第7図4	R-189	SB01 ③	土師器 環	—	2.7	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第7図5	R-191	SB01 ④	土師器 環	—	1.4	底部 小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第7図6	R-193	SB01 ④	土師器 環	—	1.7	底部 小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	硬質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第7図7	R-190	SB01 ④	土師器 環	—	1.3	底部 小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第7図8	R-184	SB01 ①	土師器 環	6.5	1.1	底部 小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	硬質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第7図9	R-185	SB01 ②	青磁 碗	(6.5)	2.0	底部 小片	内外共に回転ナデ	精良 砂礫少	硬質	オリーブ黄 / オリーブ黄	
中甸遺跡 2区	第7図10	R-192	SB01 ③	縄文土器 深鉢	—	5.4	口縁 小片	へら状工具によるナデ調整、 外面刻目突帯貼付。	片岩・角閃石 を含む。	軟質	灰黄褐 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第7図11	R-188	SB01 ③	瓦質土器 鉢	—	2.2	口縁 小片	ハケ目 / 指ナデ?	精良 砂礫少	軟質	褐灰 / 褐灰	こね鉢? 外面黒色化
中甸遺跡 2区	第7図12	R-183	SB01 ①	土師器 鍋	—	2.0	口縁 細片	口縁端部に押圧痕。	片岩を含む。	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	摩耗している
中甸遺跡 2区	第7図13	R-182	SB01 ①	瓦質土器 摺鉢	—	3.8	口縁 小片	ハケ状工具によるナデ / ナデ	精良 砂礫少	軟質	灰黄 / 灰黄	
中甸遺跡 2区	第7図14	R-194	SB02	土師器 小 皿	9.0 (7.5)	1.5	口縁 小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第7図15	R-196	SB02 南	土師器 環	(8.2)	1.1	底部 小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 浅黄橙	摩耗している
中甸遺跡 2区	第7図16	R-195	SB02	須恵器 鉢	—	3.5	口縁 小片	内外ともに丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰 / 灰	片口有。
中甸遺跡 2区	第14図1	R-033	SK01 No.1	土師器 環	(8.0)	1.6	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	浅黄 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第14図2	R-034	SK01	須恵器 鉢	—	1.2	底部片	回転ナデ / 回転ナデ	精良 砂礫少	硬質	灰 / 黄灰	
中甸遺跡 2区	第14図3	R-031	SK02	土師器 小 皿	10.0 (8.5)	1.3	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	灰黄 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第14図4	R-030	SK02	土師器 小 皿	8.2 (7.0)	1.7	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第14図5	R-032	SK02	土師器 小 皿	(6.4)	0.6	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい褐 / にぶい黄橙	スス付着、灯明皿?
中甸遺跡 2区	第14図6	R-016	SK02	土師器 環	14.0 (9.5)	2.9	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第14図7	R-029	SK02	土師器 環	—	2.8	底部小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	暗灰黄 / 明灰黄	
中甸遺跡 2区	第14図8	R-027	SK02	土鍾	3.3	0.9	小片	丁寧なナデ調整。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第14図9	R-028	SK02	土鍾	2.5	0.9	小片	丁寧なナデ調整。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第14図10	R-026	SK02	土鍾	4.8	0.9	先端部分一 部欠損	丁寧なナデ調整。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第14図11	R-037	SK04	土鍾	4.0	1.0	ほぼ完形	丁寧なナデ調整。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第14図12	R-036	SK04	土師器 環	15.0 (10.3)	2.7	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第14図13	R-048	SK05	* 須恵器 壺	—	3.2	肩部小片	回転ナデ / タタキ後回転ハケ による沈線	精良 砂礫少	硬質	暗オリーブ灰 / 灰	
中甸遺跡 2区	第14図14	R-039	SK07	土鍾	4.0	0.7	2/3 強	内外面ともに丁寧なナデ。	緻密 砂礫少	軟質	暗灰黄 / 暗灰黄	
中甸遺跡 2区	第14図15	R-038	SK07	土鍾	5.4	0.7	ほぼ完形	内外面ともに丁寧なナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第14図16	R-035	SK06	土師器 小 皿	8.8 (6.0)	1.7	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第14図17	R-046	SK08	土師器 小 皿	8.5 (6.0)	1.5	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	* にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第14図18	R-045	SK08	土師器 環	13.8 (10.3)	2.7	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第14図19	R-047	SK08	土師器 鍋	—	6.6	口縁部小片	ハケ後ナデ / ハケ目後ナデ、 口縁部指圧痕	緻密 砂礫少	軟質	黒褐 / 黒褐	両面全体にスス付着
中甸遺跡 2区	第15図1	R-019	SK03	土師器 環	(8.5)	1.2	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第15図2	R-020	SK03	土師器 小 皿	9.5 (8.3)	1.5	完形に近い	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	全体的に作りが粗く いびつ
中甸遺跡 2区	第15図3	R-017	SK03	土師器 環	12.5 (9.0)	3.0	1/4 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第15図4	R-021	SK03	土師器 環	14.0 (10.0)	2.7	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第15図5	R-018	SK03	土師器 環	(9.0)	1.1	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第15図6	R-022	SK03	土師器 環	15.5 (11.9)	2.8	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第15図7	R-023	SK03	弥生土器 甕	—	3.0	口縁部小片	内外面共にナデ調整	石英・片岩 を含む	軟質	橙 / 黒	外部にスス付着
中甸遺跡 2区	第15図8	R-024	SK03	土鍾	4.5	1.8	先端部部 欠損	丁寧なナデ調整。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第15図9	R-025	SK03	土鍾	4.0	0.9	ほぼ完形	丁寧なナデ調整。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第15図10	R-054	SK03	石鍋	29.5 (32.5)	4.7	破片	内外面ともに丁寧な整形。	滑石	—	灰 / 灰	外面突帯より下部分 にスス付着
中甸遺跡 2区	第20図1	R-049	SK10	弥生土器 甕	(7.0)	3.0	底部片	内外面共にナデ調整。	石英・角閃石 を含む。	軟質	にぶい黄橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第20図2	R-050	SK10	青磁 碗	14.0	1.9	口縁部小片	回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	オリーブ黄 / オリーブ黄	内面に一条の沈線
中甸遺跡 2区	第20図3	R-044	SK14	土師器 環	(11.3)	1.2	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第20図4	R-043	SK14	土師器 環	(10.0)	1.9	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第21図1	R-083	SK09 ④	土師器 小 皿	8.3 (6.5)	1.3	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第21図2	R-075	SK09 No.9	土師器 小 皿	8.4 (6.6)	1.4	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	摩耗している

第1表 中甸遺跡出土遺物観察表②

遺跡名	図	実測 番号	種類	口径 (底径) c m	残存高 c m	残存	寸 法	調整 (内面 / 外面)	胎土	焼成	色調 (内面 / 外面)	備考
中甸遺跡 2区	第21図3	R-069	SK09	土師器 小 皿	10.0 (7.2)	1.5	1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第21図4	R-086	SK09 No.23	土師器 小 皿	9.3 (7.2)	1.4	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第21図5	R-082	SK09 ①	土師器 小 皿	9.0 (7.4)	1.4	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	灰黄褐 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第21図6	R-081	SK09 ①	土師器 小 皿	9.3 (7.8)	1.4	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第21図7	R-058	SK09 ③ No.27	土師器 小 皿	8.8 (6.9)	1.2	2/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第21図8	R-060	SK09 ③	土師器 小 皿	10.0 (7.8)	1.3	1/4 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい褐 / にぶい褐	
中甸遺跡 2区	第21図9	R-068	SK09	土師器 小 皿	8.5 (6.8)	1.1	口縁部をわ ずかに欠損	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / 灰褐	内面と外面の一部に スス付着。灯明皿か
中甸遺跡 2区	第21図10	R-067	SK09	土師器 小 皿	8.4 (6.6)	1.1	3/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第21図11	R-065	SK09	土師器 小 皿	8.8 (7.0)	1.2	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第21図12	R-053	SK09	土師器 小 皿	10.0 (8.0)	1.4	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい褐 / にぶい褐	
中甸遺跡 2区	第21図13	R-089	SK09 No.21	土師器 小 皿	8.8 (6.8)	1.5	1/3 弱	"内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	灰黄褐 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第21図14	R-066	SK09	土師器 小 皿	8.7 (6.2)	1.4	1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第21図15	R-078	SK09 No.2	土師器 小 皿	9.0 (7.4)	1.1	2/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第21図16	R-093	SK09 No.14,17	土師器 環	6.3 (6.3)	1.5	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	淡赤橙 / 淡赤橙	
中甸遺跡 2区	第21図17	R-071	SK09	土師器 小 皿	8.8 (7.6)	1.5	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第21図18	R-057	SK09 No.18	土師器 小 皿	底 (8.2)	1.5	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第21図19	R-088	SK09 No.10	土師器 小 皿	9.0 (6.8)	1.3	1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第21図20	R-118	SK09 No.11	土師器 環	13.0 (8.4)	2.5	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	口縁一箇所が 内側に湾曲。
中甸遺跡 2区	第21図21	R-076	SK09 No.7	土師器 環	13.2 (9.0)	2.5	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部不明。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第21図22	R-080	SK09 ①	土師器 環	13.8 (9.2)	3.1	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	外面スス付着
中甸遺跡 2区	第21図23	R-051	SK09	土師器 環	13.3 (9.3)	2.8	1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	灰黄褐 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第21図24	R-092	SK09 No.22	土師器 環	13.0 (9.0)	2.8	1/3 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	外面底面に スス付着
中甸遺跡 2区	第21図25	R-084	SK09 No.28	土師器 環	10.0	1.6	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	灰黄 / 灰黄	
中甸遺跡 2区	第21図26	R-052	SK09 ②	須恵器 環	14.1 (10.4)	2.9	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	硬質	灰黄褐 / 暗灰黄	
中甸遺跡 2区	第21図27	R-087	SK09 No.26	土師器 環	13.8 (9.5)	3.2	1/4 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第21図28	R-074	SK09 No.6,29	土師器 環	14.0 (10.2)	3.1	1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第21図29	R-079	SK09 ① No.10	土師器 環	13.2 (9.3)	2.7	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	内外面スス付着
中甸遺跡 2区	第21図30	R-070	SK09	土師器 環	13.8 (10.6)	2.8	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第21図31	R-061	SK09 ③	土師器 環	16.8 (12.2)	3.1	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい褐	
中甸遺跡 2区	第21図32	R-059	SK09 ③	土師器 環	10.0 (7.8)	1.3	1/3 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい褐 / にぶい褐	
中甸遺跡 2区	第21図33	R-056	SK09 No.8,11	土師器 環	13.7 (10.1)	2.9	2/3 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第21図34	R-090	SK09 No.24	土師器 環	13.7 (10.2)	2.7	1/4	"内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第21図35	R-077	SK09 No.16	土師器 環	13.0 (9.4)	2.9	2/3 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第21図36	R-064	No.16 SK09	土師器 環	14.0 (8.5)	3.2	1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	黒褐 / 鈍い褐	内面に墨付着。 罫に転用。
中甸遺跡 2区	第21図37	R-055	SK09 ①② No.10	土師器 環	13.0 (7.5)	2.3	1/4	内外共に回転ナデ、底部糸切 り後、さらに糸切り底貼付。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第21図38	R-085	SK09 No.5	土師器 環	—	3.8	小片	内外ともに回転ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / 橙	剥離している。
中甸遺跡 2区	第21図39	R-072	SK09	青磁 碗	—	4.3	小片	内外ともに回転ナデ。 外面下部ヘラケズリ	緻密 砂礫少	硬質	浅黄 / 浅黄	龍泉1類か。
中甸遺跡 2区	第24図1	R-042	SK13 北	土師器 環	12.8 (12.8)	2.8	口縁部小片	内外ともに回転ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第24図2	R-040	SK13 北	土師器 環	13.8 (10.0)	2.8	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	褐灰 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第24図3	R-015	SK13 北	土師器 環	14.0 (9.5)	3.4	1/3 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第24図4	R-041	SK13 北	土師器 環	16.2 (13.2)	3.0	小片	内外ともに回転ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第24図5	R-014	SK13	土鍾	5.6	0.9	ほぼ完形	丁寧なナデ調整。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第24図6	R-013	SK13	瓦質土器 碗	15.8 (5.3)	6.6	1/3	内外ともに丁寧なナデ。	緻密 砂礫少	軟質	灰 / 灰	スス付着。
中甸遺跡 2区	第24図7	R-144	SK15	縄文土器 浅鉢	—	5.0	口縁部小片	糸痕調整のちナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第24図8	R-130	SK15	土師器 壺	—	5.3	口縁部小片	ハケ後ナデ、内面ケズリ。	石英・角閃石 を含む。	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第24図9	R-132	SK15	土師器 小 皿	9.0 (6.8)	1.2	1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第24図10	R-131	SK15	土師器 環	(11.0)	1.2	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	石英・角閃石・ 赤色粒を含む。	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第24図11	R-134	SK15	土師器 環	12.5 (1.7)	1.7	底部小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第24図12	R-129	SK15	土師器 環	(8.0)	2.2	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第24図13	R-133	SK15	須恵器 高台付環	(6.0)	2.0	底部片	内外共に回転ナデ。	緻密 砂礫少	硬質	灰 / 灰	
中甸遺跡 2区	第24図14	R-128	SK15	瓦質土器 火 鉢	(13.0)	3.2	底部片	丁寧なナデ。底部外面ケズリ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄 / 灰	

第1表 中甸遺跡出土遺物観察表③

遺跡名	図	実測 番号	種類	口径 (底径) cm	残存高 cm	残存	寸 法	調整 (内面 / 外面)	胎土	焼成	色調 (内面 / 外面)	備考
中甸遺跡 2区	第24図15	R-136	SK15	青磁 碗	—	2.1	小片	丁寧なナデ	緻密 砂礫少	硬質	灰緑-ア / 灰緑-ア	内面へラ描の 文様外面縞模文
中甸遺跡 2区	第24図16	R-135	SK15	青磁 碗	16.3	3.3	口縁部小片	内外共に回転ナデ。	緻密 砂礫少	硬質	灰緑-ア / 灰緑-ア	
中甸遺跡 2区	第26図1	R-125	SK16	土師器 小皿	7.4 (6.0)	1.1	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第26図2	R-111	SK16	土師器 環	8.5 (7.2)	1.2	口縁部一部 欠損	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第26図3	R-110	SK16	土師器 小皿	7.9 (7.0)	1.2	ほぼ 完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第26図4	R-124	SK16	土師器 環	(9.0)	0.8	底部片	"内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第26図5	R-127	SK16	土鍾	2.8	0.9	約 1/2	丁寧なナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第26図6	R-143	SK16	土師器 甕	—	2.4	口縁部小片	内外共に回転ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第26図7	R-126	SK16	土師器 壺	—	2.9	頸部小片	内外共にハケ目後ナデ。	片岩・角閃石 を含む。	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第28図1	R-115	SK17	土師器 小皿	8.0 (6.2)	1.3	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第28図2	R-120	SK17	土師器 環	12.7 (8.0)	2.4	口縁部小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄 / にぶい黄	
中甸遺跡 2区	第28図3	R-116	SK17	土師器 環	12.3 (8.0)	3.0	1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第28図4	R-117	SK17	土師器 環	(8.0)	1.7	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / 鈍い黄橙	
中甸遺跡 2区	第28図5	R-121	SK17	須恵器 高台付環	—	3.0	口縁部小片	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰 / 灰	
中甸遺跡 2区	第28図6	R-122	SK17	青磁 碗	—	3.8	口縁部小片	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	良好、硬 質	緑-ア 灰 / 緑-ア 灰	外面に蓮花文？ 龍泉系か。
中甸遺跡 2区	第28図7	R-123	SK17	土鍾	4.3	0.8	完形に近い	丁寧なナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄 / にぶい黄	
中甸遺跡 2区	第30図1	R-137	SK18	土師器 小皿	9.3 (6.8)	1.3	1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	底部黒斑あり
中甸遺跡 2区	第30図2	R-142	SK18	土師器 小皿	(7.0)	1.3	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第30図3	R-138	SK18	土師器 環	(9.0)	1.4	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第30図4	R-141	SK18	土師器 環	(10.2)	1.0	底部小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第30図5	R-139	SK18	土師器 壺	(12.6)	1.3	底部小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / 暗灰黄	
中甸遺跡 2区	第30図6	R-140	SK18	土師器 環	—	2.3	口縁部小片	内外共にヨコナデ。	片岩・石英 を含む。	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第30図7	R-145	SK18	須恵器 壺	—	3.3	頸部片	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	にぶい茶褐 / 灰褐	自然釉がかかる
中甸遺跡 2区	第31図1	R-114	SK20	土師器 小皿	8.0 (6.2)	1.3	小片	内外共に回転ナデ。 底部は摩耗のため不明。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第31図3	R-112	SK20	土師器 環	(8.7)	1.6	1/4	内外共に回転ナデ。 底部は摩耗のため不明。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第31図2	R-113	SK20	土師器 小皿	8.5 (7.0)	1.2	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第32図1	R-102	SK21	土師器 小皿	9.0 (7.7)	1.0	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第32図2	R-103	SK21	土師器 環	13.8 (10.5)	2.9	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	石英・角閃石 を含む。	軟質	にぶい橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第32図3	R-101	SK21	土師器 環	14.0 (9.5)	2.8	小片	内外共に回転ナデ。	角閃石・赤色 粒を含む。	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第32図4	R-105	SK21	染付 碗	—	1.5	口縁部小片	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	淡黄 / 淡黄	
中甸遺跡 2区	第32図5	R-104	SK21	青磁 碗	—	2.9	口縁部小片	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	淡黄 / 淡黄	内側に沈線
中甸遺跡 2区	第32図6	R-119	SK22	須恵器 こね鉢	—	3.3	口縁部小片	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰 / 灰	口縁部外面に黒色釉 付着
中甸遺跡 2区	第32図7	R-109	SK22	青磁 碗	(4.5)	1.7	底部片	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰緑-ア / 灰緑-ア	高台内側まで施釉。
中甸遺跡 2区	第32図8	R-108	SK22	青磁 碗	(4.5)	1.7	底部片	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰緑-ア / 灰緑-ア	高台内側まで施釉。
中甸遺跡 2区	第32図9	R-106	SK22	青磁 碗	(4.8)	2.8	底部片	内外共に回転ナデ、高台貼付。	精良 砂礫少	硬質	浅黄 / 浅黄	
中甸遺跡 2区	第34図1	R-174	SK25 ②	土師器 小皿	(6.0)	1.3	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図2	R-165	SK25 ②	土師器 小皿	9.0 (7.3)	1.5	1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第34図3	R-161	SK25	土師器 小皿	8.9 (7.0)	1.2	小片	摩耗のため不明	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第34図4	R-157	SK25	土師器 小皿	9.8 (8.0)	1.6	1/4 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図5	R-160	SK25	土師器 小皿	10.2 (8.3)	1.6	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	灰黄褐 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第34図6	R-162	SK25	土師器 小皿	9.6 (7.5)	1.3	1/4 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第34図7	R-167	SK25 ②	土師器 小皿	9.0 (6.9)	1.7	ほぼ 完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図8	R-155	SK25	土師器 小皿	10.0 (8.0)	1.8	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図9	R-171	SK25 ②	土師器 環	8.9 (7.3)	3.0	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第34図10	R-173	SK25 ②	土師器 小皿	9.5 (7.6)	1.4	1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図11	R-153	SK25	土師器 小皿	9.0 (6.5)	1.4	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図12	R-172	SK25 ②	土師器 小皿	7.8 (6.4)	1.3	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図13	R-156	SK25	土師器 小皿	10.0 (8.0)	1.8	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図14	R-154	SK25	土師器 小皿	9.0 (6.4)	1.4	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第34図15	R-166	SK25 ②	土師器 小皿	9.0 (6.7)	1.6	1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第34図16	R-146	SK25	土師器 環	14.2 (9.8)	2.6	1/2 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	

第1表 中甸遺跡出土遺物観察表④

遺跡名	図	実測 番号	種類	口径 (底径) cm	残存高 cm	残存	寸 法	調整 (内面 / 外面)	胎土	焼成	色調 (内面 / 外面)	備考
中甸遺跡 2区	第34図17	R-159	SK25	土師器 杯	16.0 (11.5)	3.0	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図18	R-152	SK25	土師器 杯	13.2 (8.4)	3.2	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第34図19	R-147	SK25	土師器 杯	15.0 (9.6)	2.6	1/5 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第34図20	R-164	SK25 ②	土師器 杯	16.0 (11.2)	3.1	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第34図21	R-158	SK25	土師器 杯	15.3 (11.3)	3.0	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第34図22	R-163	SK25	土師器 蓋	17.0	2.8	口縁部小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 鈍い橙	
中甸遺跡 2区	第34図23	R-168	SK25 ②	土師器 杯	15.0 (9.5)	3.2	1/4 弱	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / にぶい黄橙	外面の一部にスス付着
中甸遺跡 2区	第34図24	R-149	SK25	土師器 杯	16.5 (12.0)	2.3	1/5 強	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第34図25	R-169	SK25 ②	土師器 杯	15.2 (11.0)	3.1	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第34図26	R-175	SK25 ②	土師器 杯	3.5	0.9	1/2 強?	丁寧なナデ調整。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	外面は丹塗りの痕跡か?
中甸遺跡 2区	第34図27	R-177	SK25 ②	青磁 碗	—	1.9	口縁部小片	丁寧なナデ調整。	精良 砂礫少	硬質	オリーブ黄 / オリーブ黄	
中甸遺跡 2区	第34図28	R-178	SK25 ②	青磁 碗	—	2.5	口縁部小片	丁寧なナデ調整。	精良 砂礫少	硬質	灰オリーブ / 灰オリーブ	外面蓮花文
中甸遺跡 2区	第34図29	R-176	SK25 ②	青磁 碗	16.4	5.2	口縁部小片	丁寧なナデ調整。	精良 砂礫少	硬質	オリーブ黄 / オリーブ黄	
中甸遺跡 2区	第34図30	R-179	SK25 ②	青磁 碗	—	2.2	底部小片	丁寧なナデ調整。 外面型作り?	精良 砂礫少	硬質	明緑灰 / 明緑灰	
中甸遺跡 2区	第34図31	R-180	SK25 ②	青磁 碗	(6.5)	4.5	底部片	丁寧なナデ調整。	精良 砂礫少	硬質	灰オリーブ / 灰オリーブ	内側中央に押型の花文?
中甸遺跡 2区	第36図1	R-097	SK29	土師器 杯	—	2.2	口縁部小片	内外共に回転ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第36図2	R-096	SK29	土師器 杯	10.0	1.5	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい褐	
中甸遺跡 2区	第36図3	R-098	SK29	土師器 杯	10.0	2.5	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	石英・角閃石 を含む。	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第36図4	R-099	SK29	土師器 小皿	8.3 (7.2)	1.2	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい褐 / にぶい褐	
中甸遺跡 2区	第36図5	R-100	SK29	土師器 小皿	(6.4)	0.7	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第36図6	R-095	SK29	青磁 碗	—	4.9	口縁部小片	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰オリーブ / 灰オリーブ	
中甸遺跡 2区	第36図7	R-094	SK29	青磁 碗	17.0 (6.3)	7.3	1/3	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	オリーブ黄 / オリーブ黄	
中甸遺跡 2区	第37図1	R-207	I10Gr 土器 集中部①	土師器 小皿	8.8 (7.3)	1.4	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第37図2	R-212	I10Gr 土器 集中部①	青磁 碗	10.0	3.3	口縁部片	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰オリーブ / 灰オリーブ	
中甸遺跡 2区	第37図3	R-209	I10Gr 土器 集中部①	土師器 杯	13.4 (9.0)	2.9	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	灰黄褐 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第37図4	R-208	I10Gr 土器 集中部①	土師器 杯	14.8 (12.0)	2.5	1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第37図5	R-210	I10Gr 土器 集中部①	土師器 鍋	—	3.5	口縁部小片	内外共にハケ後ナデ。 口縁端部刻目。	片岩・角閃石 を含む。	軟質	灰黄褐 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第37図6	R-214	I10Gr 土器 集中部①	土師器 鍋	—	6.7	口縁部小片	内外共にハケ後ナデ。 口縁端部刻目。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第37図7	R-211	I10Gr 土器 集中部①	土師器 鍋	—	5.5	口縁部小片	内外共にハケ後ナデ。 口縁端部刻目。	片岩・角閃石 を含む。	軟質	灰黄褐 / 灰黄褐	外面スス付着
中甸遺跡 2区	第37図8	R-215	I10Gr 土器 集中部②	土師器 杯	14.0 (10.0)	3.0	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第37図9	R-216	I10Gr 土器 集中部②	土師器 杯	14.5 (9.6)	2.7	口縁部一部 欠損	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第37図10	R-225	I10Gr 土器 集中部③	土師器 杯	14.8 (11.0)	3.1	1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい褐	
中甸遺跡 2区	第37図11	R-213	I10Gr 土器 集中部③	須恵器 碗	(5.0)	2.5	底部片	内外共に回転ナデ。	緻密 砂礫少	硬質	灰黄 / 黄灰	
中甸遺跡 2区	第37図12	R-218	I10Gr 土器 集中部③	青磁 碗	(6.8)	3.1	底部片	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰オリーブ / 灰オリーブ	
中甸遺跡 2区	第37図13	R-226	I10Gr 土器 集中部③	土師器 杯	(8.3)	1.5	底部片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第37図14	R-219	I10Gr 土器 集中部③	土師器 鍋	—	2.5	口縁部小片	内外共にハケ後ナデ。 口縁端部刻目。	緻密 砂礫少	軟質	灰黄褐 / 灰黄褐	外面スス付着
中甸遺跡 2区	第37図15	R-223	H11Gr 土器 集中部④	青磁 碗	16.0 (6.0)	7.3	1/2 弱	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰オリーブ / 灰オリーブ	ヘラ割きの文様
中甸遺跡 2区	第37図16	R-224	H11Gr 土器 集中部④	青磁 碗	(6.0)	3.3	底部片	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	オリーブ黄 / オリーブ黄	外面蓮花文
中甸遺跡 2区	第37図17	R-221	H10Gr 河原上	土師器 小皿	9.0 (7.2)	1.6	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第37図18	R-220	H10Gr 河原上	土師器 杯	14.0 (9.3)	3.2	1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい橙 / にぶい橙	
中甸遺跡 2区	第37図19	R-222	H10Gr 河原上	土師器 匱	4.5 (7.0)	3.6	把手のみ	内外共にハケ後ナデ。 内面ケズリ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第38図1	R-276	A9Gr ⑥	土師器 鍋	—	2.9	小片	内外共にハケ後ナデ。 口縁端部刻目。	精良 砂礫少	軟質	明黄褐 / 明黄褐	
中甸遺跡 2区	第38図2	R-277	A9Gr ⑧	青磁 皿	10.4 (5.5)	1.8	約 1/2	内: ナデ / 外: ナデ、底部板 ナデ	精良 砂礫少	硬質	灰オリーブ / 灰オリーブ	
中甸遺跡 2区	第38図3	R-267	B10Gr ②	青磁 碗	14.4 (2.6)	2.6	約 1/5	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	緑灰	
中甸遺跡 2区	第38図4	R-278	B11Gr ②	青磁 碗	(6.1)	5.2	底部のみ	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	暗オリーブ / 暗オリーブ	
中甸遺跡 2区	第38図5	R-280	B11Gr ③	青磁 皿	15.4	4.7	小片	内外共に回転ナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰オリーブ / オリーブ灰	
中甸遺跡 2区	第38図6	R-270	B9Gr ⑨	縄文土器 深鉢	43.6	8.7	小片	条痕調整のちナデ。	角閃石・片岩 を含む。	軟質	にぶい黄色 / 浅黄	
中甸遺跡 2区	第38図7	R-272	C12Gr	土師器 甕	15.2	4.0	約 1/4	内外面ともにヨコナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄 / 浅黄	
中甸遺跡 2区	第38図8	R-279	C11Gr ⑤	青磁 碗	(10.2)	3.2	底部のみ 1/4	内外ともに丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	オリーブ灰 / 緑灰	
中甸遺跡 2区	第38図9	R-268	C11Gr ④	瓦質土器	—	6.8	小片	内外ともに丁寧なナデ。	精良 砂礫少	軟質	黒 / 黒	
中甸遺跡 2区	第38図10	R-269	C11Gr ④	石鍋	22.4	3.7	小片	丁寧な整形。	滑石	—	灰白 / 灰白	

第1表 中甸遺跡出土遺物観察表⑤

遺跡名	図	実測 番号	種類	口径 (底径) c m	残存高 c m	残存	寸 法	調整 (内面 / 外面)	胎土	焼成	色調 (内面 / 外面)	備考
中甸遺跡 2区	第39図1	R-249	D10Gr ②	土師器 小 皿	8.6 (7.1)	1.4	ほぼ完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図2	R-252	D10Gr ⑨	土師器 小 皿	8.8 (7.0)	1.6	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図3	R-254	D10Gr ②	青磁 皿	10.2 (5.5)	2.0	小片	内外共に回転ナデ。 底部付近ケズリ。	精良 砂礫少	硬質	オリーブ灰	
中甸遺跡 2区	第39図4	R-250	D10Gr ⑨	青磁 合子	4.5 (3.5)	1.8	約 1/3	内外共に回転ナデ。 側面型づくり?	精良 砂礫少	硬質	灰緑・ア / 灰緑・フ	
中甸遺跡 2区	第39図5	R-248	D10Gr ①	土師器 杯		2.4	小片	内外共に回転ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図6	R-251	D10Gr ⑨	土師器 杯	14.0 (11.0)	2.5	約 1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	灰白 / 灰オリーブ	内面に墨付着。硯に 転用
中甸遺跡 2区	第39図7	R-245	D10Gr ⑧	土師器 杯	13.1 (9.8)	3.2	約 1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	角閃石・片岩 を含む。	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第39図8	R-244	D10Gr ⑧	土師器 杯	15.5 (10.2)	3.3	1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第39図9	R-246	D10Gr ⑥	土師器 杯	13.5 (8.5)	3.1	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄 / 浅黄	
中甸遺跡 2区	第39図11	R-247	D10Gr ⑥	土師器 杯	13.8 (11.6)	3.2	約 2/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図10	R-253	D10Gr ②	土師器 杯	14.6 (10.0)	3.1	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図12	R-255	D10Gr ②	土師器 鍋	—	4.5	小片	内外共にハケ目後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	明黄褐 / にぶい黄	
中甸遺跡 2区	第39図13	R-243	D10Gr	土師器 杯	11.5	6.2	1/2	内：丁寧なナデ / 外：丁寧な ナデ、ハケ後ナデ	角閃石・片岩 を含む。	軟質	にぶい黄橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図14	R-241	E11Gr ⑥	土師器 小 皿	8.5 (7.0)	1.3	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	精良 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第39図15	R-229	E11Gr ⑤	土師器 小 皿	8.0 (7.4)	1.6	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質		
中甸遺跡 2区	第39図16	R-237	E11Gr ⑦	土師器 小 皿	8.2 (6.8)	1.4	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図17	R-227	E11Gr ⑧	土師器 小 皿	8.4 (7.0)	1.4	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	良好、 軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第39図18	R-234	E12Gr ③	土師器 小 皿	7.9 (6.0)	1.5	約 1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図19	R-231	E11Gr ⑤	土師器 小 皿	8.0 (7.3)	1.7	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄 / 浅黄	
中甸遺跡 2区	第39図20	R-236	E11Gr ⑦	土師器 杯	12.8 (9.2)	2.7	ほぼ完形	内外ともに回転ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	明黄褐 / 明黄褐	内面スス付着 (灯明 皿)
中甸遺跡 2区	第39図21	R-233	E11Gr ③	青磁碗	(3.4)	2.7	底部のみ	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰・ア / 灰・ア	
中甸遺跡 2区	第39図22	R-230	E11Gr ⑤	土師器 杯	13.6 (9.4)	2.9	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	明黄褐 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図23	R-228	E11Gr ⑤	土師器 杯	13.4 (9.0)	3.3	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	明黄褐 / 明黄褐	
中甸遺跡 2区	第39図24	R-242	E12Gr ①	土師器 杯	15.3 (11.0)	2.7	約 1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図25	R-232	E12Gr ③	土師器 杯	15.7 (11.5)	2.8	約 1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	黄橙 / 黄橙	外面スス付着 (灯明 皿?)
中甸遺跡 2区	第39図26	R-238	E11Gr ⑤	土師器 杯	16.0 (11.9)	3.2	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図27	R-239	E11Gr ⑤	青磁碗	(6.8)	3.0	底部のみ	丁寧なナデ。	精良 砂礫少	硬質	灰白 / 灰白	
中甸遺跡 2区	第39図28	R-240	E11Gr ⑧	土師器 鍋	—	9.5	小片	ハケ目後ナデ。	石英・金色の 雲母を含む。	軟質	黒 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第39図29	R-235	E11Gr ⑦	瓦質土器 こね鉢	—	9.2	小片	ハケ目後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	黄灰 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第39図31	R-257	E11Gr ③	土師器 小 皿	8.6 (6.0)	1.1	約 1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図32	R-265	E10Gr ④	土師器 杯	12.2 (9.0)	2.8	約 1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図33	R-266	E11Gr ②	土師器 杯	14.2 (10.2)	3.2	ほぼ完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第39図34	R-264	E10Gr ⑧	土師器 杯	13.9 (9.6)	3.9	約 2/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	灰黄 / 灰黄	
中甸遺跡 2区	第39図35	R-258	E10Gr ⑦	青磁碗	(3.9)	3.5	底部のみ	回転ナデ。 底部付近ケズリ。	精良 砂礫少	軟質	灰・ア / 灰・ア	
中甸遺跡 2区	第39図36	R-256	E11Gr ③	青磁碗	12.0 (5.2)	4.0	約 1/3	丁寧なナデ。 外面連弁文。	精良 砂礫少	硬質	灰・ア / 灰・ア	
中甸遺跡 2区	第39図37	R-262	E11Gr ②	土師器 鍋		4.9	小片	内外共にハケ後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	黒 / 暗黄灰	
中甸遺跡 2区	第39図38	R-263	E10Gr ⑧	青磁碗	(4.0)	1.7	1/2	丁寧な調整。	精良 砂礫少	硬質	緑灰 / 緑灰	底部がやや赤化
中甸遺跡 2区	第39図39	R-259	E10Gr ⑥	瓦質土器 摺鉢	30.0	4.1	小片	内外面ともにハケ後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第39図40	R-260	E10Gr ⑦	石鍋	23.0	5.5	約 1/5	丁寧な調整。	滑石	—		外面スス付着
中甸遺跡 2区	第40図1	R-285	F11Gr ②	土師器 小 皿	10.1 (8.8)	1.5	約 1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図2	R-281	F10Gr ④	青磁碗	(5.8)	2.9	約 2/3	丁寧な調整。	精良 砂礫少	硬質	灰・ア / 灰・ア	
中甸遺跡 2区	第40図3	R-282	F10Gr ④	土師器 鉢	—	3.7	小片	内：端部付近ハケ後ヨコナデ、 ハケ後ナデ / 外：ナデ	緻密 砂礫少	軟質	明黄褐 / 明黄褐	
中甸遺跡 2区	第40図4	R-283	F10Gr ⑧	土師器 鉢	—	2.4	小片	ハケ目	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	外面スス付着
中甸遺跡 2区	第40図5	R-284	F11Gr ③	土師器 飯	—	5.8	把手のみ	ハケ後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図6	R-296	P-033 (E9Gr)	土師器 小 皿	8.3 (6.9)	1.9	約 1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図7	R-301	P-034 (E9Gr)	土師器 杯	14.8 (11.0)	2.5	約 1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	明黄褐 / 明黄褐	
中甸遺跡 2区	第40図8	R-307	P-038 (E9Gr)	土師器 小 皿	8.9 (6.8)	1.6	約 1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図9	R-304	P-108 (E9Gr)	土師器 鉢	6.1	1.2	完形	丁寧なナデ。	緻密 砂礫少	軟質	明黄褐 / 明黄褐	
中甸遺跡 2区	第40図10	R-297	P-111 (E9Gr)	土師器 小 皿	8.5 (7.2)	1.6	約 1/2	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄褐 / にぶい黄褐	内面スス付着、灯明 皿か?
中甸遺跡 2区	第40図11	R-305	P-124 (E9Gr)	土師器 杯	13.5 (10.5)	3.3	約 1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図12	R-306	P-124 (E9Gr)	土師器 小 皿	8.6 (6.7)	1.8	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質		

第1表 中甸遺跡出土遺物観察表⑥

遺跡名	図	実測 番号	種類	口径 (底径) c m	残存高 c m	残存	寸 法	調整 (内面 / 外面)	胎土	焼成	色調 (内面 / 外面)	備考
中甸遺跡 2区	第40図13	R-287	P-143 (E10Gr)	土師器 環	8.0 (6.9)	1.5	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図14	R-288	P-143 (E10Gr)	土師器 環	13.6 (9.4)	2.8	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄 / 浅黄	
中甸遺跡 2区	第40図15	R-302	P-162 (E10Gr)	土師器 小皿	8.0 (5.5)	1.3	2/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄 / にぶい黄	
中甸遺跡 2区	第40図16	R-286	P-159 (E10Gr)	土師器 環	13.0 (9.6)	2.5	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図17	R-303	P-163 (E10Gr)	土師器 小皿	9.3 (7.3)	1.5	1/4	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図18	R-289	P-165 (E10Gr)	土師器 鍋	—	3.5	口縁部小片	内外共にハケ後ナデ。 口縁端部刻目有。	角閃石・片岩粒 を含む	軟質	黄灰 / にぶい黄	
中甸遺跡 2区	第40図19	R-294	P-186 (D9Gr)	土師器 小皿	7.5 (5.7)	1.9	約 2/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図20	R-295	P-190 (D10Gr)	土師器 鉢	27.9	6.0	約 1/6	内外共に丁寧なヨコナデ。	緻密 砂礫少	軟質	暗灰黄色 / にぶい黄色	
中甸遺跡 2区	第40図21	R-298	P-194 (D10Gr)	土師器 鉢	4.3	0.8	完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	明赤褐 / 明赤褐	
中甸遺跡 2区	第40図22	R-299	P-194 (D10Gr)	土師器 小皿	7.8 (6.8)	1.2	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図23	R-300	P-194 (D10Gr)	土師器 小皿	8.7 (7.0)	1.1	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図24	R-293	P-210 (D9Gr)	土師器 環	11.4 (5.2)	5.4	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	内面スス付着
中甸遺跡 2区	第40図25	R-292	P-242 (D10Gr)	土師器 鉢	11.2 (6.9)	2.8	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄 / 浅黄	
中甸遺跡 2区	第40図26	R-290	P-242 (D10Gr)	土師器 鉢	12.2 (8.1)	2.5	口縁部約 2/3 を欠く	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図27	R-291	P-242 (D10Gr)	土師器 鉢	14.1 (10.2)	2.7	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図28	R-314	P-307 (D10Gr)	土師器 鉢	15.3 (10.7)	3.6	約 1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図29	R-315	P-327 (D9Gr)	土師器 鉢	12.7 (10.0)	2.7	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	
中甸遺跡 2区	第40図30	R-313	P-339 (C10Gr)	土師器 小皿	9.0 (6.2)	1.3	ほぼ完形	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第40図31	R-310	P-382 (B10Gr)	土師器 鍋	30.0	4.7	小片	内外共にハケ目後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	黄灰 / 黄灰	外面スス付着
中甸遺跡 2区	第40図32	R-309	P-462 (C10Gr)	土師器 鉢	15.1 (10.8)	2.6	約 1/6	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第40図33	R-311	P-465 (C10Gr)	土師器 鉢	14.4 (11.6)	3.0	約 1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図34	R-312	P-474 (D10Gr)	土師器 鉢	11.6 (9.6)	2.5	約 1/3	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第40図35	R-308	P-514 (A10Gr)	土師器 鉢	14.4 (9.4)	3.0	約 1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後板目圧痕。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第42図1	R-205	SD01	縄文土器 深鉢	—	3.0	口縁部小片	条痕調整のちナデ。 丁寧なナデ調整。	片岩を含む	軟質	黄灰 / 灰黄褐	
中甸遺跡 2区	第42図2	R-199	SD01	青磁 碗	(5.2)	2.5	底部片	丁寧なナデ調整。	緻密 砂礫少	硬質	灰赤-灰 / 灰赤-灰	蓮弁文
中甸遺跡 2区	第42図3	R-274	SD-01 (C10)	青磁 碗	(5.0)	2.2	約 1/2	丁寧なナデ調整。	緻密 砂礫少	硬質	灰赤-灰 / 灰赤-灰	
中甸遺跡 2区	第42図4	R-198	SD01	土師器 鉢	14.8 (10.0)	3.3	1/5	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	浅黄橙 / 浅黄橙	側面摩耗している
中甸遺跡 2区	第42図5	R-197	SD01	土師器 鉢	—	3.1	小片	内外ともに回転ナデ。 底部糸切り後ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第42図6	R-275	SD01 (C10)	土師器 鉢	50.0	10.0	小片	内外共にハケ後ナデ。	金色の雲母 を含む。	軟質	橙 / 橙	
中甸遺跡 2区	第42図7	R-203	SD01	須恵器 壺	—	5.3	口縁部小片	内外共に回転ナデ。	緻密 砂礫少	硬質	褐灰 / 褐灰	口縁部外面に自然釉 付着。越か。
中甸遺跡 2区	第42図8	R-202	SD01	瓦質土器 火鉢	—	4.0	口縁部小片	内外共に回転ナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / 灰	
中甸遺跡 2区	第42図9	R-204	SD01	須恵器 甕	—	4.7	胴部小片	内外面ともにタタキ後 外面横方向のハケ目。	緻密 砂礫少	硬質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	やや赤みを帯び ている
中甸遺跡 2区	第42図10	R-206	SD01	土師器 壺	—	5.0	肩部小片	内外ともにナデ。 内面に強いナデ	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	
中甸遺跡 2区	第42図11	R-273	SD01	瓦質土器 描鉢	—	6.7	小片	内外面ともにナデ 内面力キ目。	緻密 砂礫少	軟質	灰 / 灰	
中甸遺跡 2区	第42図12	R-201	SD01	瓦質土器 火鉢	—	8.5	胴部小片	内外面ともにナデ。	緻密 砂礫少	軟質	灰赤-灰 / 灰	スタンプの花文
中甸遺跡 2区	第42図13	R-200	SD01	瓦質土器 火鉢	—	9.5	胴部小片	内外面ともにナデ。	緻密 砂礫少	軟質	にぶい黄橙 / 灰赤-灰	スタンプの花文

図版

PLATES

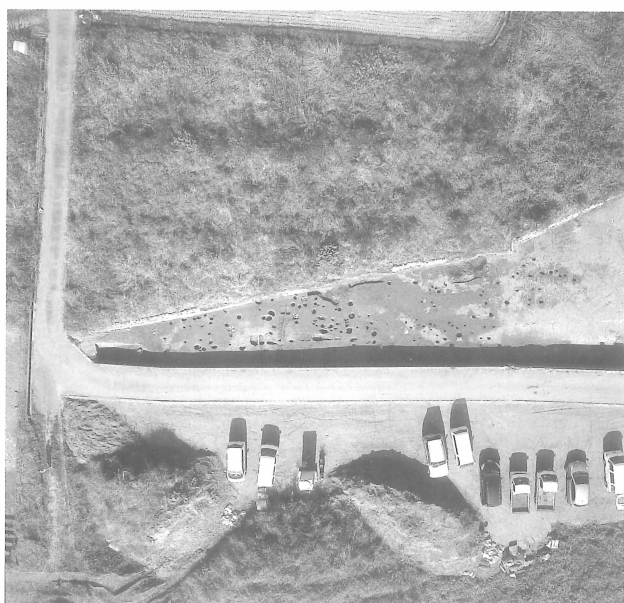
図版 1



中甸遺跡全景（東上空より）



中甸遺跡 1 区（上空より、上が北）



中甸遺跡 1 区西半部（上空より、上が北）



中甸遺跡 1 区西半部検出遺構（東より）



中甸遺跡 1 区西半部検出遺構（西より）



中甸遺跡 1 区 SD01（南より）



中甸遺跡 1 区南壁中央付近土層（東より）
（厚く洪水砂層が堆積する状況）



中甸遺跡 2 区調査前（東より）



中甸遺跡 2 区（東上空より）

図版 3



中甸遺跡 2 区西半部（上空より、上が北）



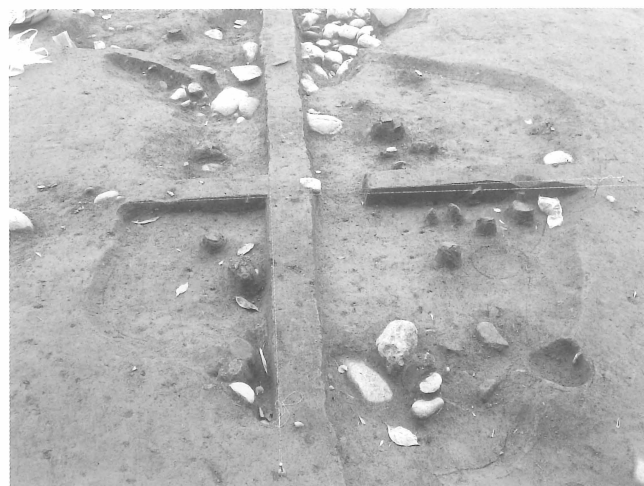
中甸遺跡 2 区 SB01・SB02（南西より）



中甸遺跡 2 区 SK03（東より）



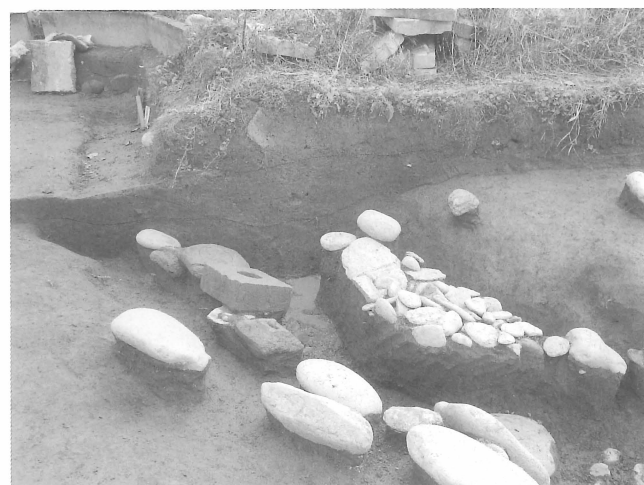
中甸遺跡 2 区 SK09 (東より)



中甸遺跡 2 区 SK25 (南より)



中甸遺跡 2 区 SD01 (東より)



中甸遺跡 SD01 出土石塔 (C12Gr)



中甸遺跡 2 区 SD01 出土石塔 (東より、No.1 ~ 3)



中甸遺跡 2 区 SD01 出土石塔 (東より、No.1 ~ 3)

図版 5



中甸遺跡 2 区 SD01 出土石塔（東より、No. 6・7）



中甸遺跡 2 区 SD01 出土石塔（東より、No. 6・7）



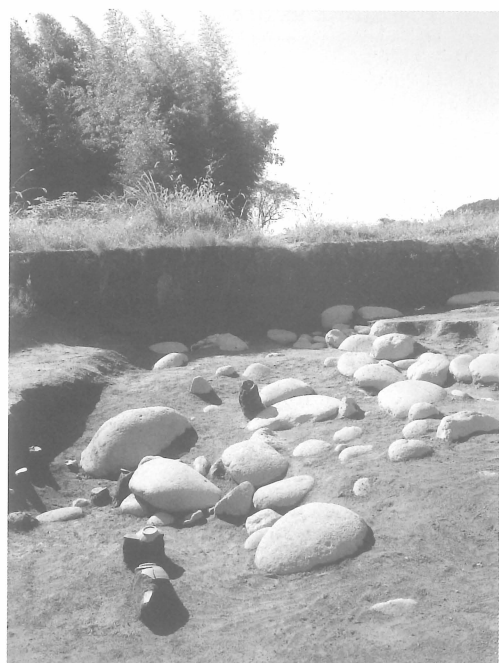
中甸遺跡 2 区 SD01 出土石塔（No. 8）



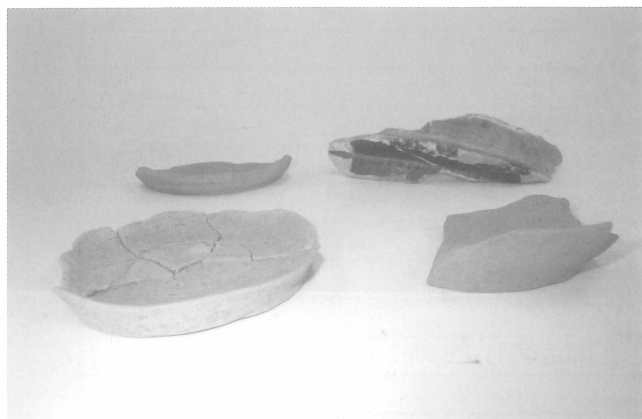
中甸遺跡 2 区東半土器集中部付近（西より）



中甸遺跡 2 区東半土器集中部①②③（西より）



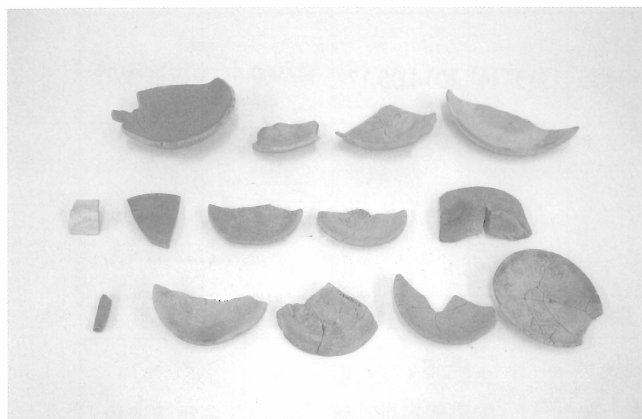
中甸遺跡 2 区東半土器集中部④付近（東より）



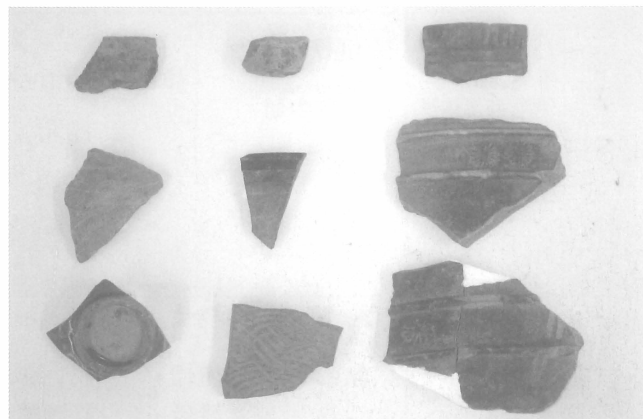
中甸遺跡 2 区 SK03 出土遺物（一部抜粋）



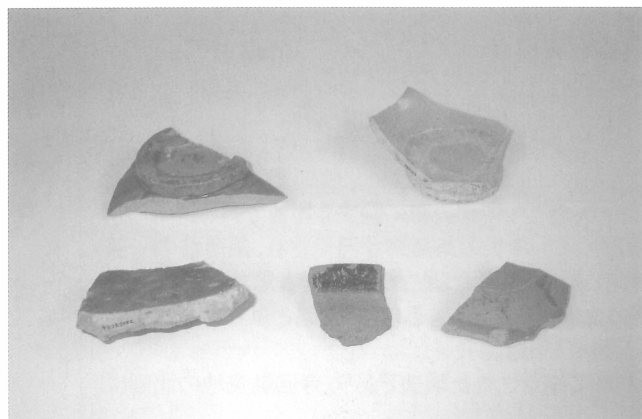
中甸遺跡 2 区 SK09 出土遺物（一部抜粋）



中甸遺跡 2 区 SK25 出土遺物（一部抜粋）



中甸遺跡 2 区 SD01 出土遺物（一部抜粋）



中甸遺跡 2 区 SK22 出土遺物（一部抜粋）



中甸遺跡 2 区 SK22 出土青磁（第 32 図 7）



中甸遺跡 2 区時集中部出土遺物（一部抜粋）



中甸遺跡 2 区 D2Gr 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な		なかつるいせき						
書 名		中甸遺跡						
副 書 名		矢部川災害復旧助成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻 次								
シ リ ー ズ 名		八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号		第 1 1 4 集						
編 著 者 名		檀 佳克 (だん よしかつ)						
編 集 機 関		八女市教育委員会						
所 在 地		〒834-8585 福岡県八女市本町 6 4 7 TEL. 0943-23-1982 FAX. 0943-24-4331						
発 行 年 月 日		西暦 2016年3月31日						
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふ り が な 所 在 地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
		市町村	遺 跡 番 号					
なかつるいせき 中甸遺跡 (長野西遺跡群)	ふくおかけんやめし 福岡県八女市 ながのあざなかつる 長野 字 中甸	402109	401063	33°13'25"	130°37'14"	2014.05.17 ～ 2014.12.11	約2,900㎡	災害復旧
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項
中甸遺跡	集落跡	平安時代・ 鎌倉時代・ 江戸時代		掘立柱建物跡 溝跡・土坑 等		土師器・須恵器・ 陶磁器石塔 等		多重濠遺構 事業（河川 整備）
要 約	矢部川災害復旧助成事業に伴い発掘調査を実施した中甸遺跡に関する報告である。 中甸遺跡発掘調査では、星野川に面する古代末～中世の集落跡が発見され、集落跡の一部について記録保存のための発掘調査を実施した。調査では掘立柱建物跡と思われる柱穴が500以上発見され、12世紀後半前後の時期の土器が出土した。その他、流路と思われる溝跡の土石流埋土から、中世末～近世と思われる五輪塔が出土した。 長野西遺跡群で12世紀前後の集落跡が初めて確認された調査であり、今回調査地の北側に集落遺跡が展開している状況が確認された。							

※座標は世界測地系による。国土地理院ホームページの地図検索システムより得たものであり、基準点測量によって得た値ではない

中 甸 遺 跡
八女市文化財調査報告書
第 1 1 4 集

平成28年3月31日

発 行 八女市教育委員会
八女市本町 6 4 7
印 刷 (株) 東 兄 弟
八女市祈祷院 5 6 3